

過眼録

七拾七冊之内  
壹

831  
77  
95



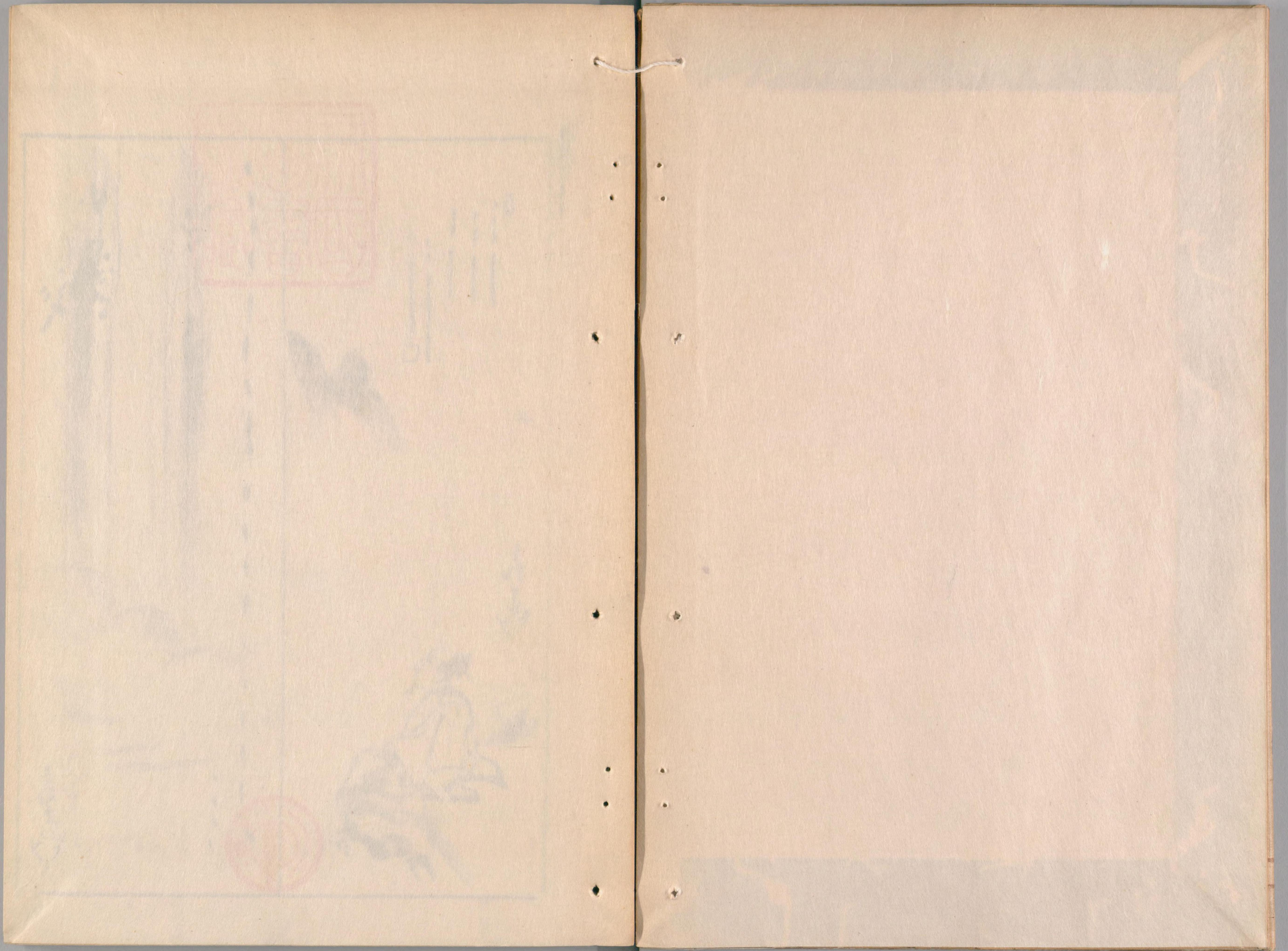
国立国会図書館 タイトル『過眼録』 請求記号 831-95

ガラス使用



甲寅過眼録

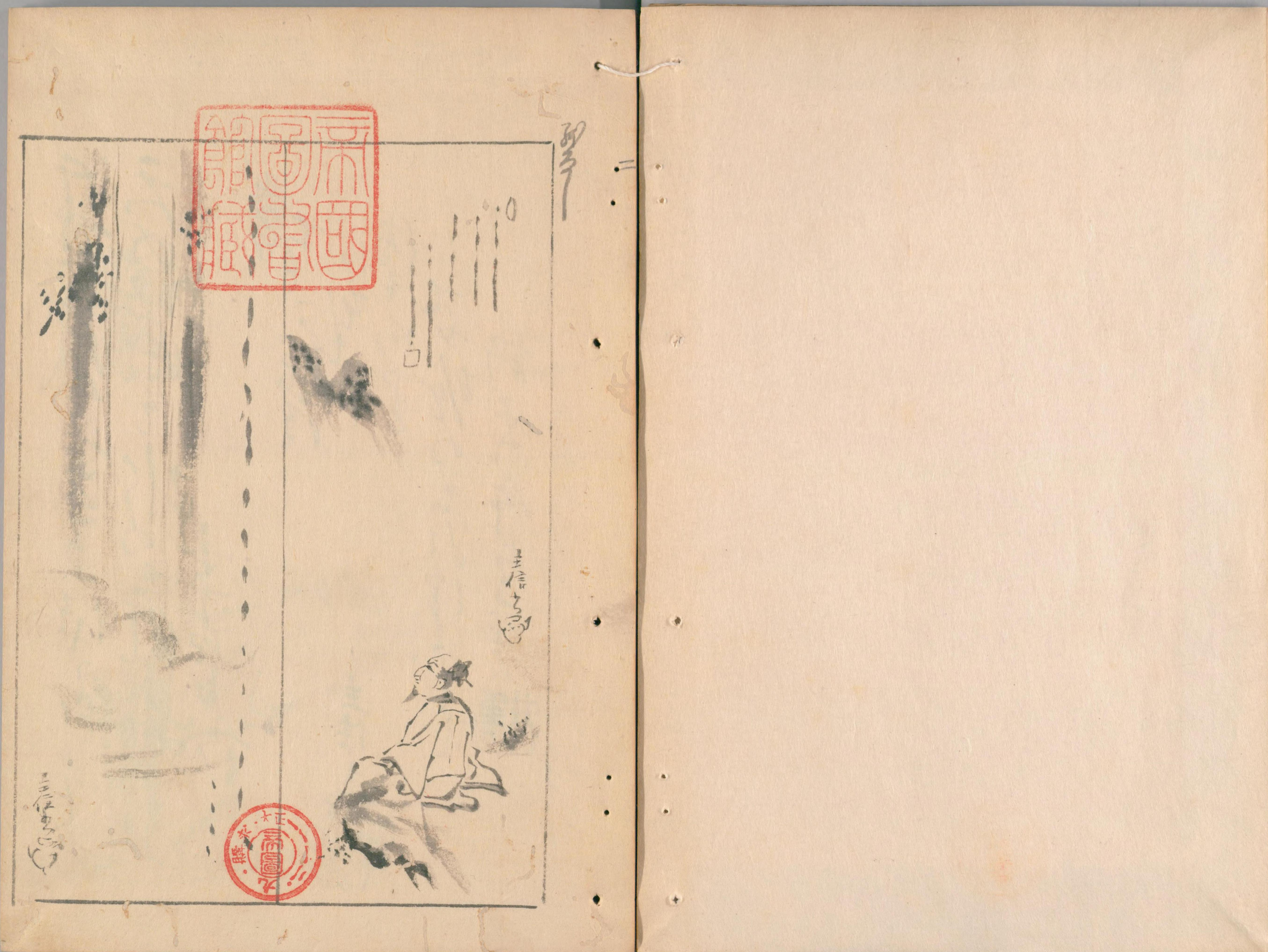




国立国会図書館 タイトル『過眼録』 請求記号 831-95

ガラス使用





Red seal impression with characters in seal script, likely reading '大正 信子' (Taisho Shizuko).

Red seal impression with characters in seal script, likely reading '大正 信子' (Taisho Shizuko).



信長公御書



千代目風をふまゝりはまじし  
天の河原も水の三れのみ  
すなはち



ちとて

い

酒

右少将の君れ侍より

許子六席上より



主信







精光所

行向



蓮舟の詞者有

一 魅突 彼部守方精舟草名松平部守方又成老

一 交 徳心丸末大政人松平有

一 方守 松平守啓守人古守信守人

一 宗知 号吉道梅為主園人  
号守作二守松平者

一 松清 依守守守江守人守守守人守守守

一 正秀 守守守 守守守守守守守守守

一 幻省 守守守守守守守守守守守守守  
号守守守守守守守守守守守守守



一 木向 年式に人権大政に後井の内

一 武宗 并侍久保及ら城井佐乃人  
朱水作也者

一 民加 治中より後事新七五又

一 正虎 幸由幸在り指井地乃人花尾  
去尚入下より為也撰者

一 如竹 治中より信守元兵、信守三言後又先由

一 知徳 治中より人三團つ人又号は志

一 重栄 伴山七五本佐母乃人  
出山集又恒訂集撰者

一 二道 人欠佐信昌親治中佐東山最乃人

一 氏範 治中より佐子  
治中より佐撰者 右尚集又

一 乃乃 治中より佐佐乃人  
五尚入

一 の者 治中より佐信母乃人号は長所  
治中より佐撰者

一 之住 治中より佐撰者

一 之 治中より佐撰者

一 梅貞 治中より佐撰者  
治中より佐撰者

一 重成 治中より佐撰者

一 重徳 治中より佐撰者  
治中より佐撰者



不二 高僧の事は長大名の事と云ふ人等あり  
三つに布

宗信 唐の僧は法名を姓とす房太師の僧也  
山崎の僧は千手千眼の僧也

真義 中比由名を又と宣ひて名を又と宣ひ  
高僧の事は僧の事と云ふ

幽山 之僧の事は法名を姓とす  
俳作の事

海白子 合白と三つありて名を又と宣ひ  
法名を又と宣ひ

言子 後醍醐天皇の御事と云ふ  
一と云ふ事

柳陰 唐の僧は法名を姓とす  
中山の僧は法名を姓とす  
一と云ふ事

下 万葉三に海老の事と云ふ  
三つに布

家 杉木と云ふ僧の事と云ふ  
大子の事

東水 唐の僧は法名を姓とす  
山崎の僧は千手千眼の僧也

惟明 石の事と云ふ  
一と云ふ事

文任 一と云ふ事  
唐の僧は法名を姓とす

調賦子 後醍醐天皇の御事と云ふ  
一と云ふ事

長治 唐の僧は法名を姓とす  
一と云ふ事

曲云 柳の事と云ふ  
一と云ふ事





一 毛丸 妻の法舟の名を毛丸流俗に之市の人増治平次  
ヤシ作名 長目舟初巻に法舟の名

一 愚侍 赤丸名匠の三舟を舟人  
何と早稲者

一 貞辰 中流の死を舟人

一 正春 舟名市を揚國の人  
白姓舟人

一 胡分 舟名舟舟人  
之舟早稲者

一 工呻 舟名舟舟人  
舟名舟舟人

一 光如 舟名舟舟人  
舟名舟舟人

一 弘氏 舟名舟舟人  
舟名舟舟人

七

一 文禱子 舟名舟舟人

一 長秀 舟名舟舟人

一 市好 舟名舟舟人  
舟名舟舟人

一 宗根 舟名舟舟人  
舟名舟舟人

一 三信 舟名舟舟人  
舟名舟舟人

一 元知 舟名舟舟人  
舟名舟舟人



一 山村  
目付新上り中島新入  
云阿久入 博納撰者

一 山田  
山田法橋南都位江人  
春原撰者

一 貴  
山田法橋南都位江人  
春原撰者

一 頼永  
中島新入  
山田法橋南都位江人

一 頼次  
中島新入  
山田法橋南都位江人

一 瑞信  
山田法橋南都位江人  
春原撰者

一 長林  
山田法橋南都位江人  
春原撰者

一 北三  
山田法橋南都位江人  
春原撰者

一 成之  
山田法橋南都位江人  
春原撰者

一 吉武  
山田法橋南都位江人  
春原撰者

一 吉與  
山田法橋南都位江人  
春原撰者

一 吉長  
山田法橋南都位江人  
春原撰者











草子

草子

初辰令月

款五拾

萬葉子秋

樂未

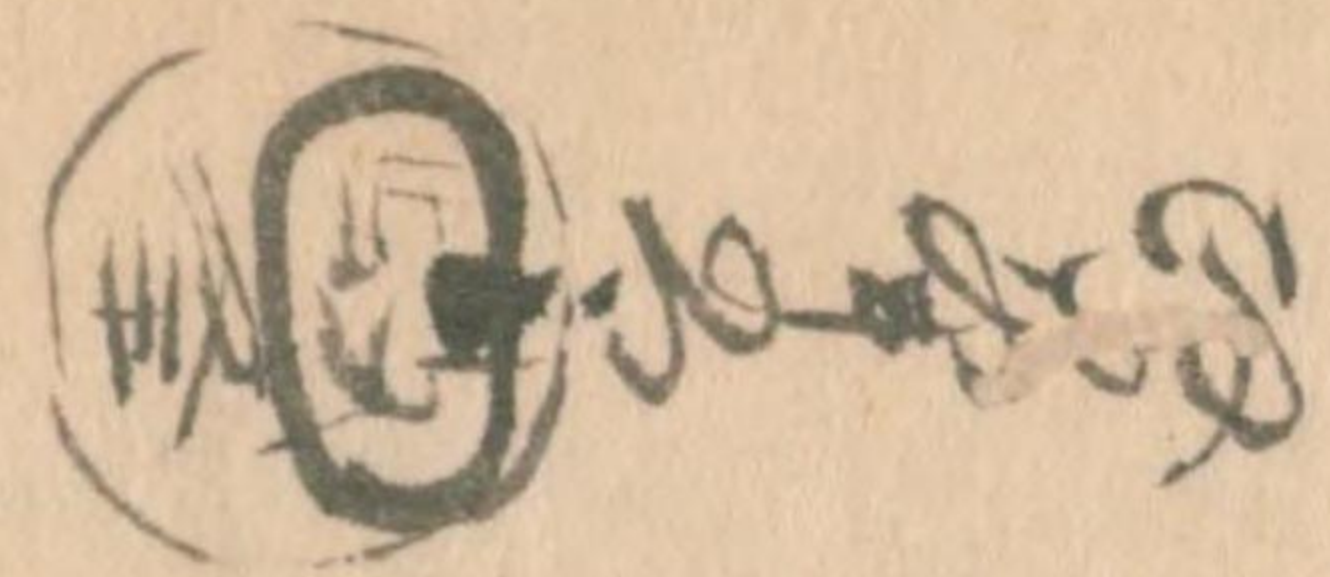
央

高橋六郎子年元日書



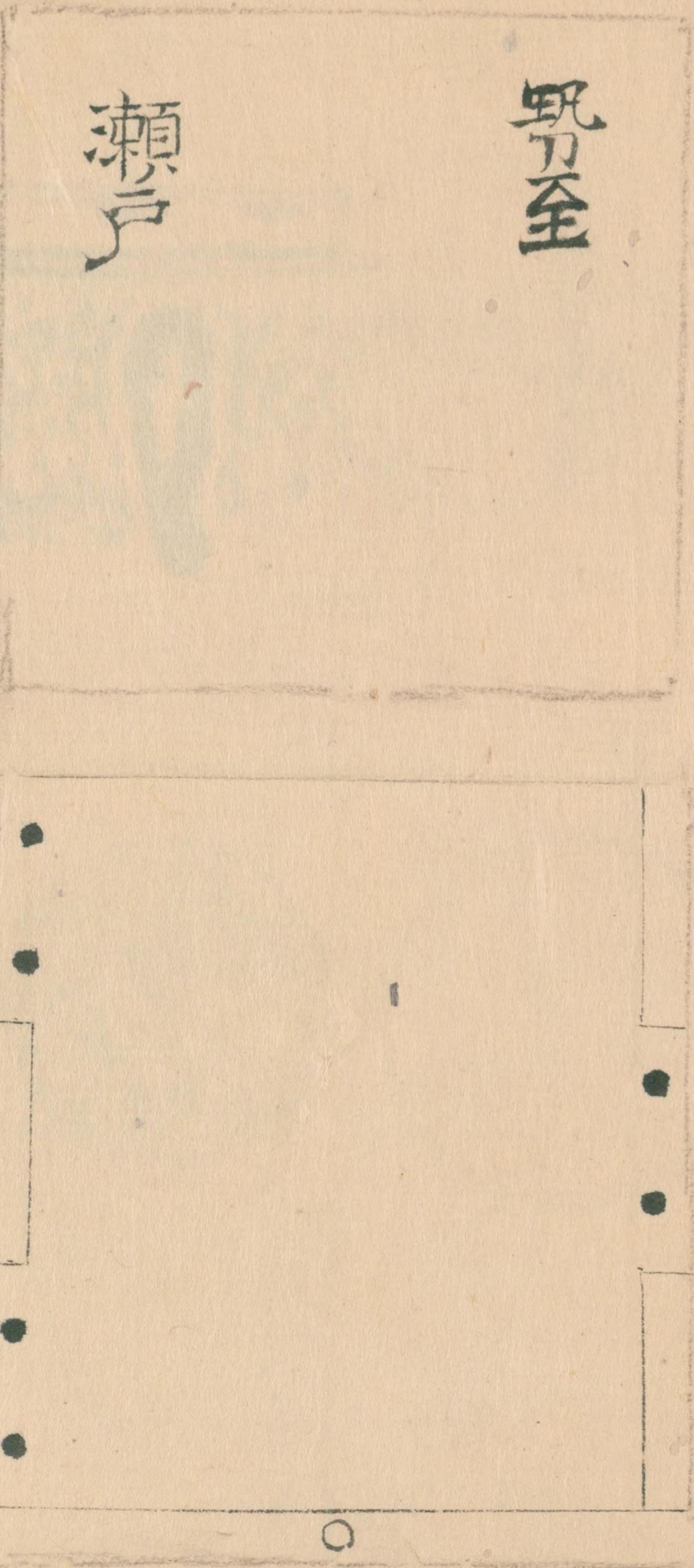


洗口香 〽



政事書局





白桐市名  
木子三寸余

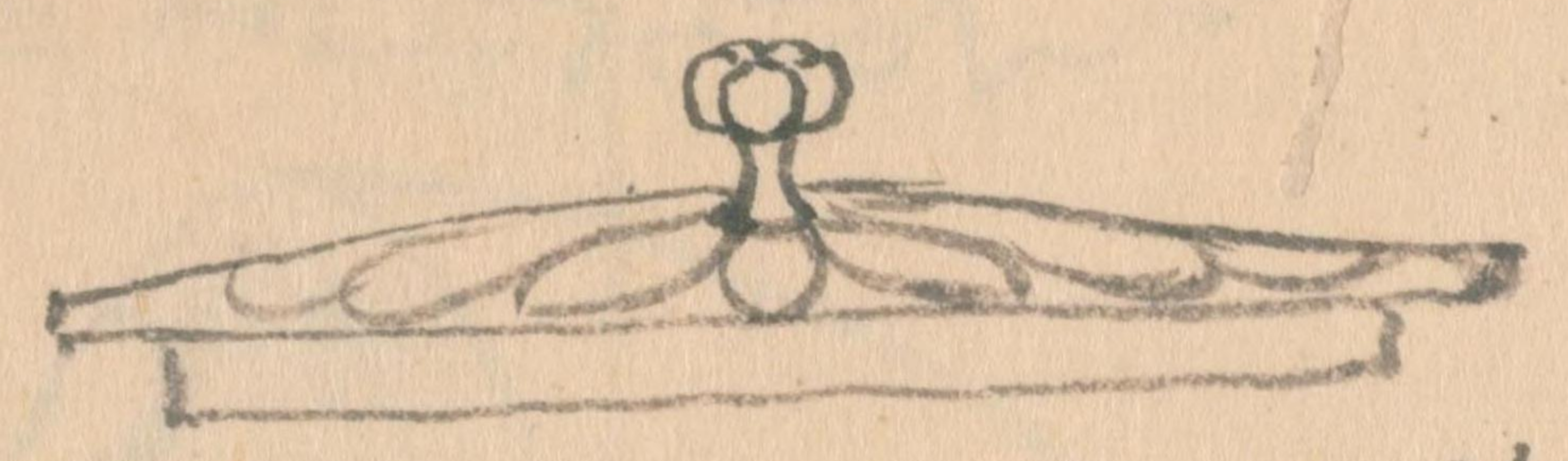


木子三寸余  
生田草白皮中葉光

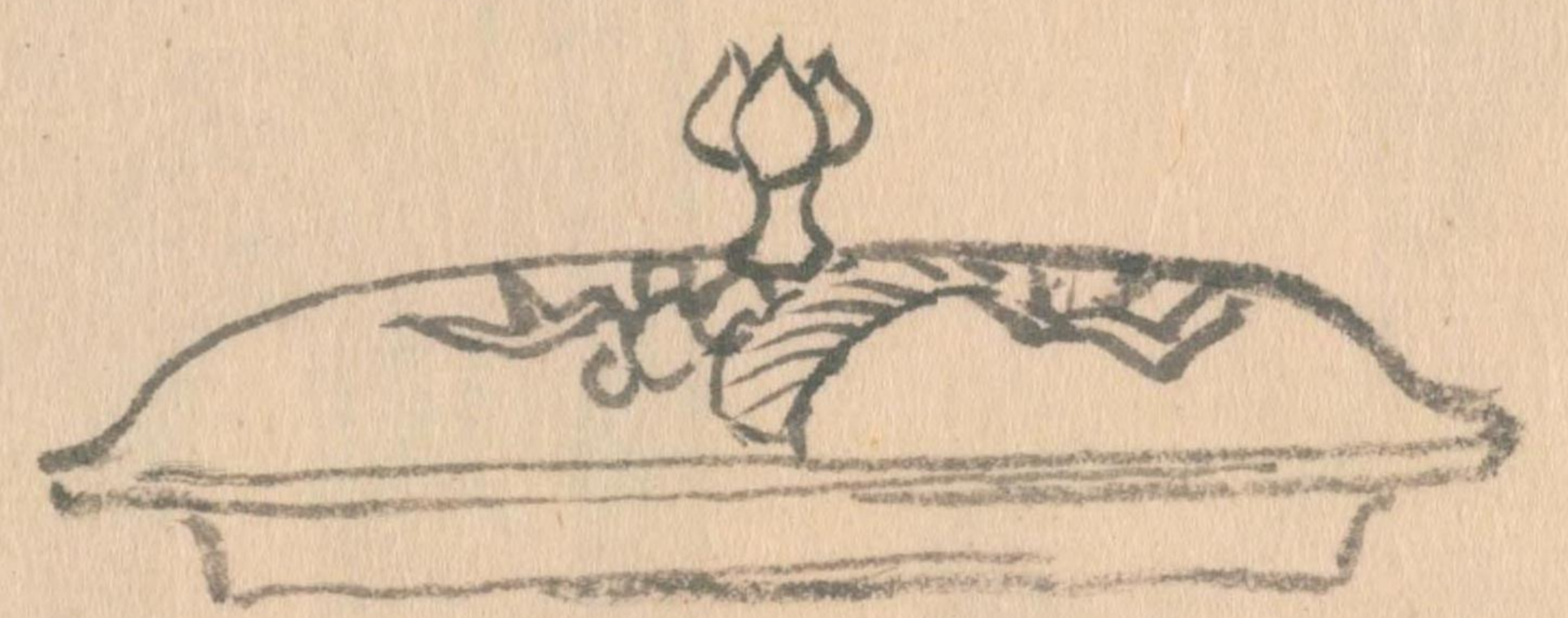
底板木子  
三寸半余

十二

信長公弓  
日向橋部下物  
下巻也  
信木下家五丸  
之骨以記

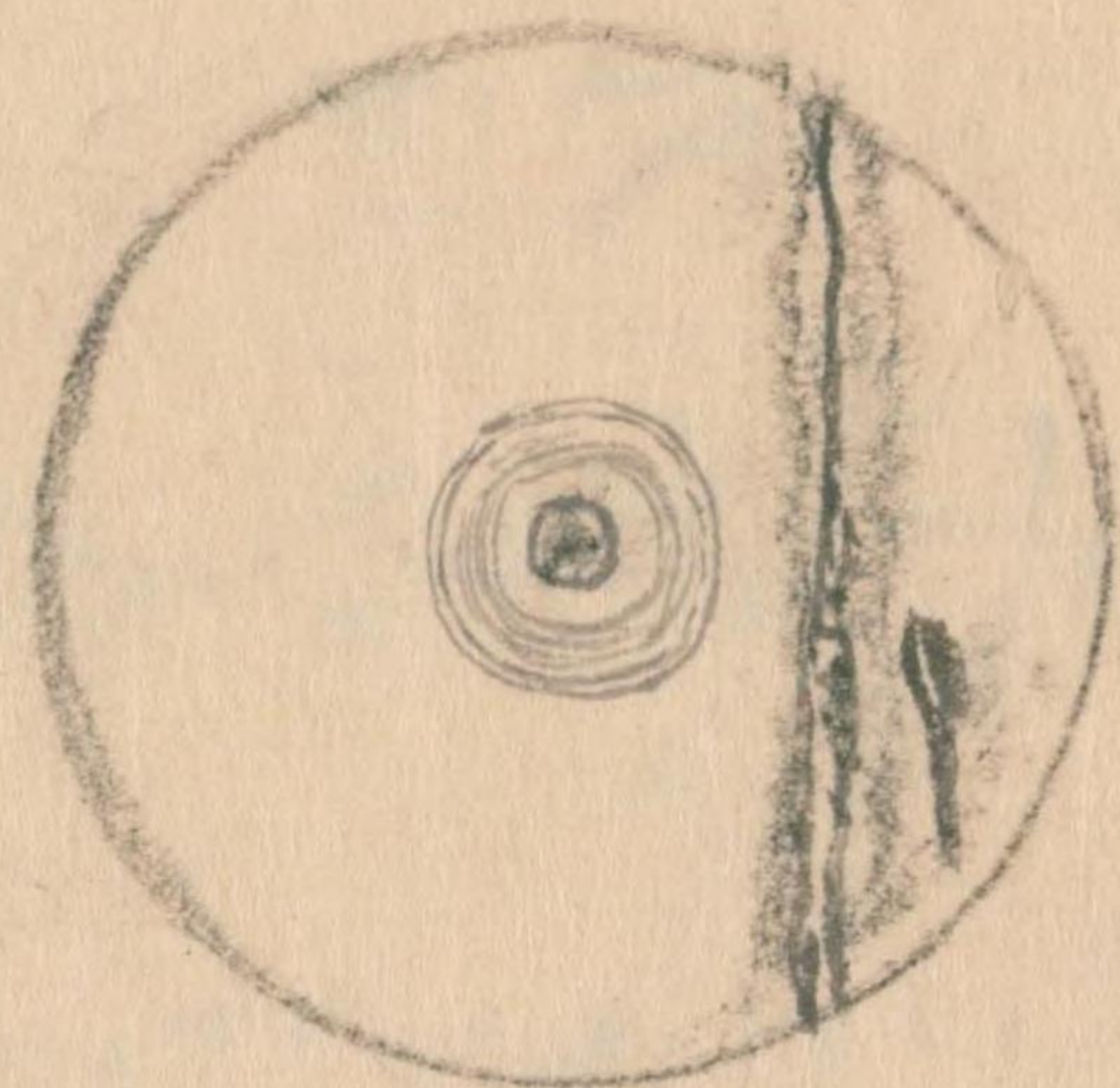
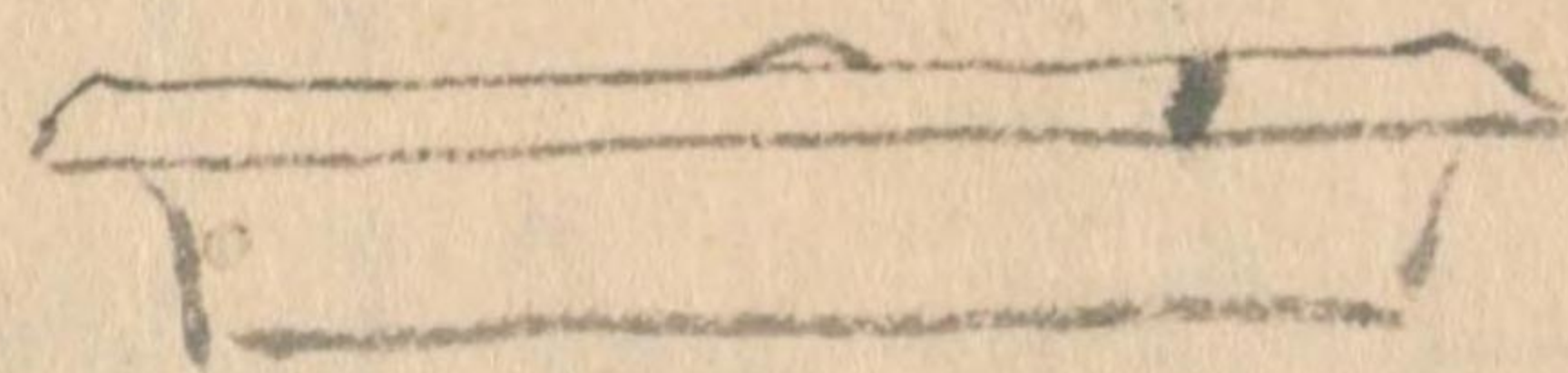


淡共  
葉紋



方洞  
棧巴折板紋

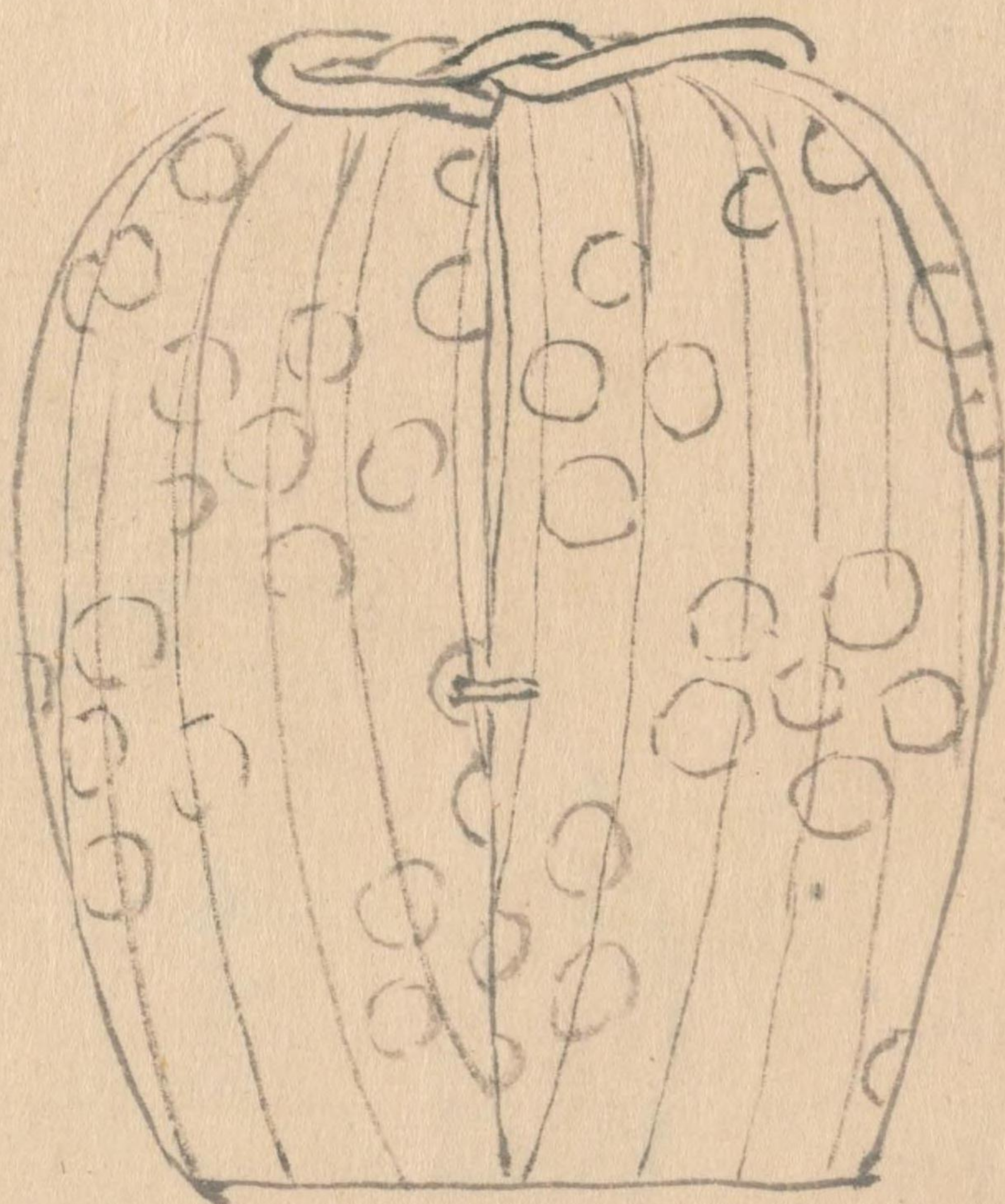




十三

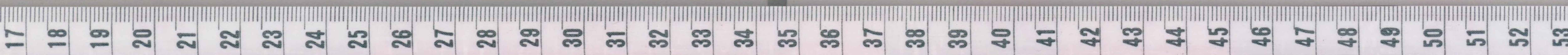
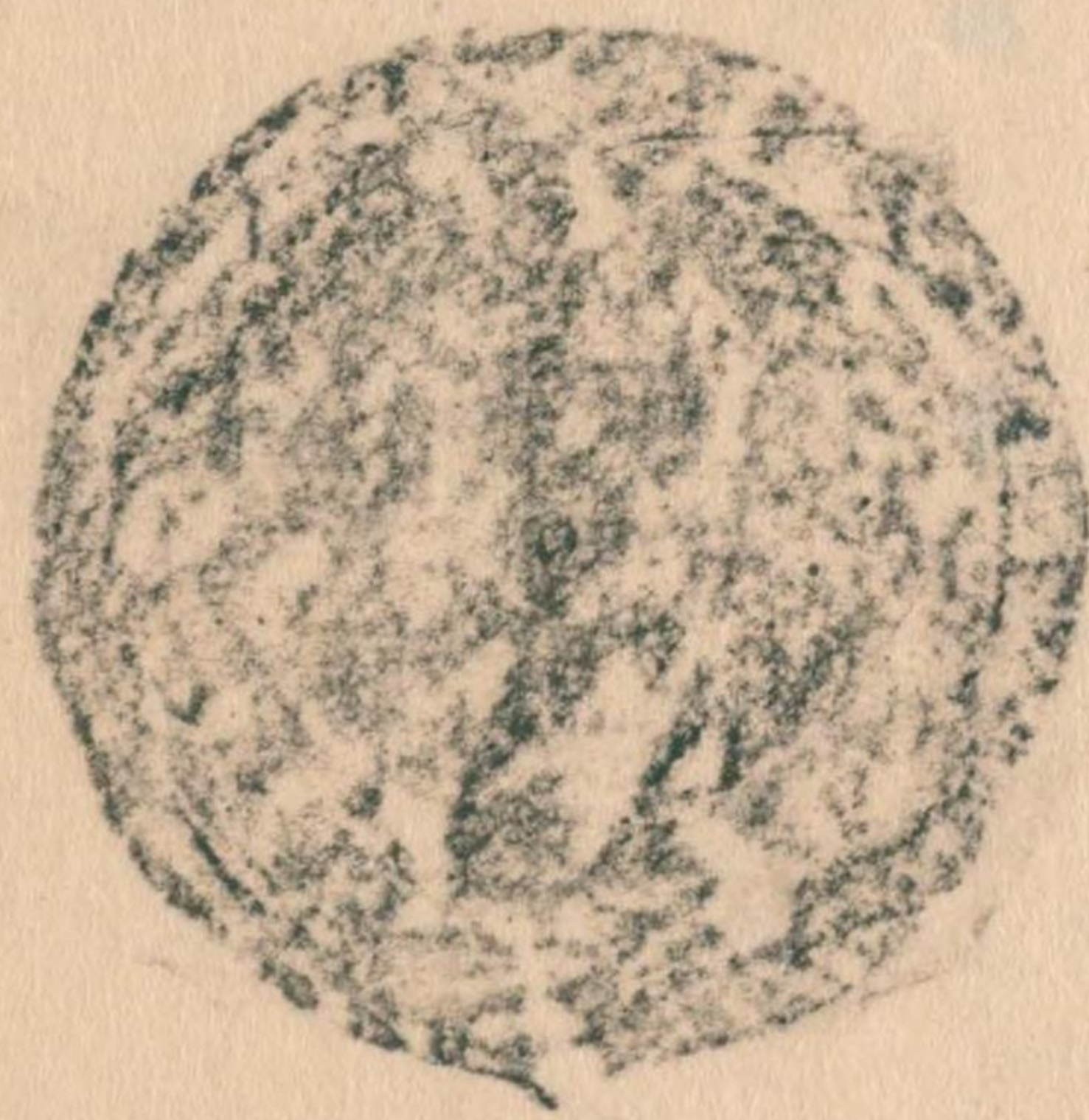
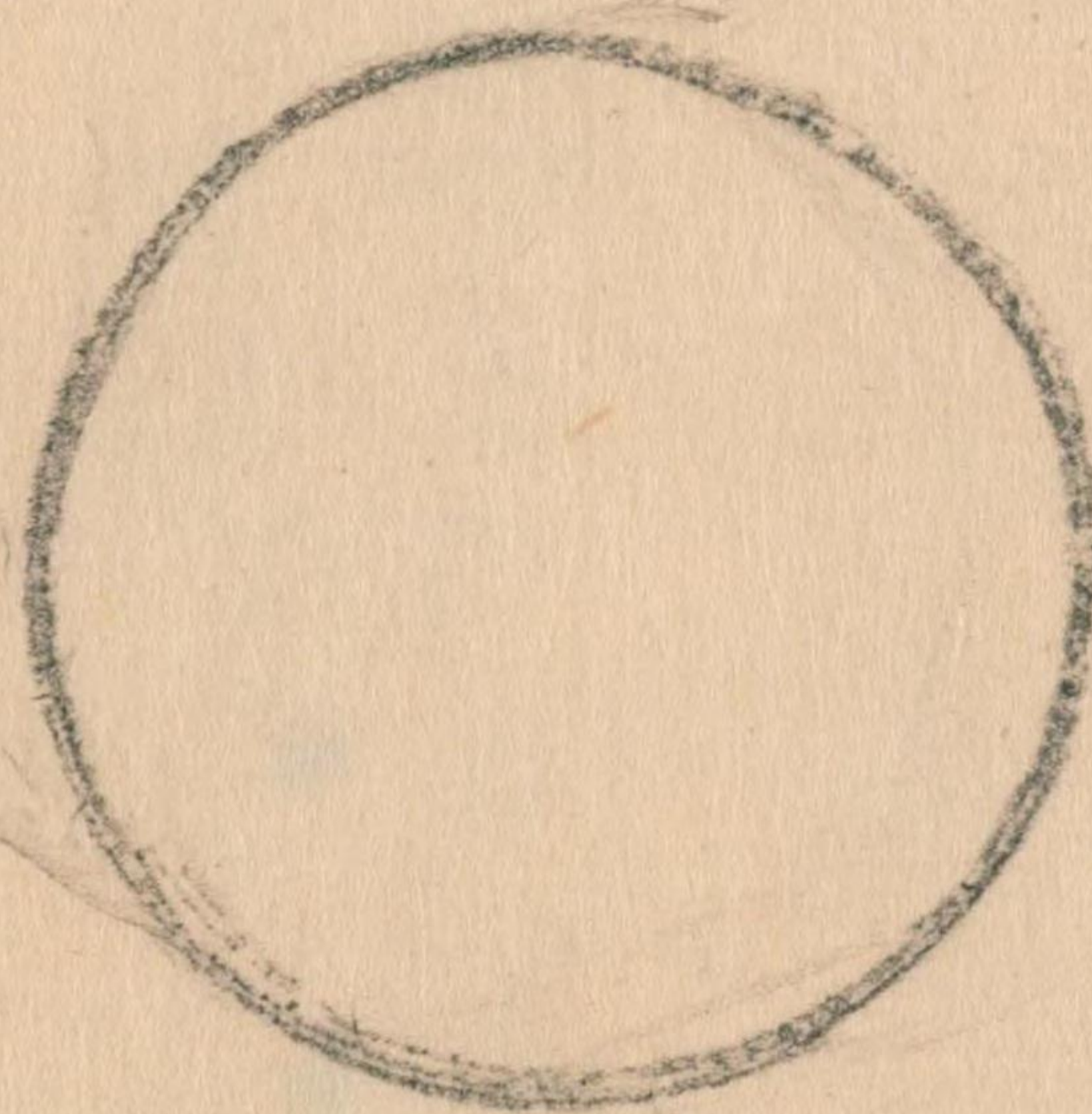


很纹ニ地共左係很着前



緒差色 手名玉中体元

花名 青白 水色 小加戸 乃々 花名





白桐唐后向并者三貴

杏竹李

染付

茶碗



ミヤ

本名子三ノヤ  
カニ  
西ノカン  
一ノセリ

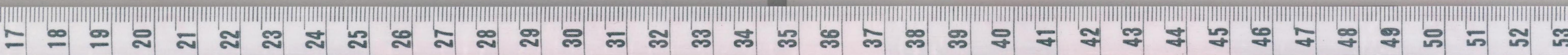
十  
九

三  
日

三  
日

Handwritten notes in cursive script, including the characters '三' and '日'.

Handwritten signature or note at the bottom of the page.





地ふり寸方

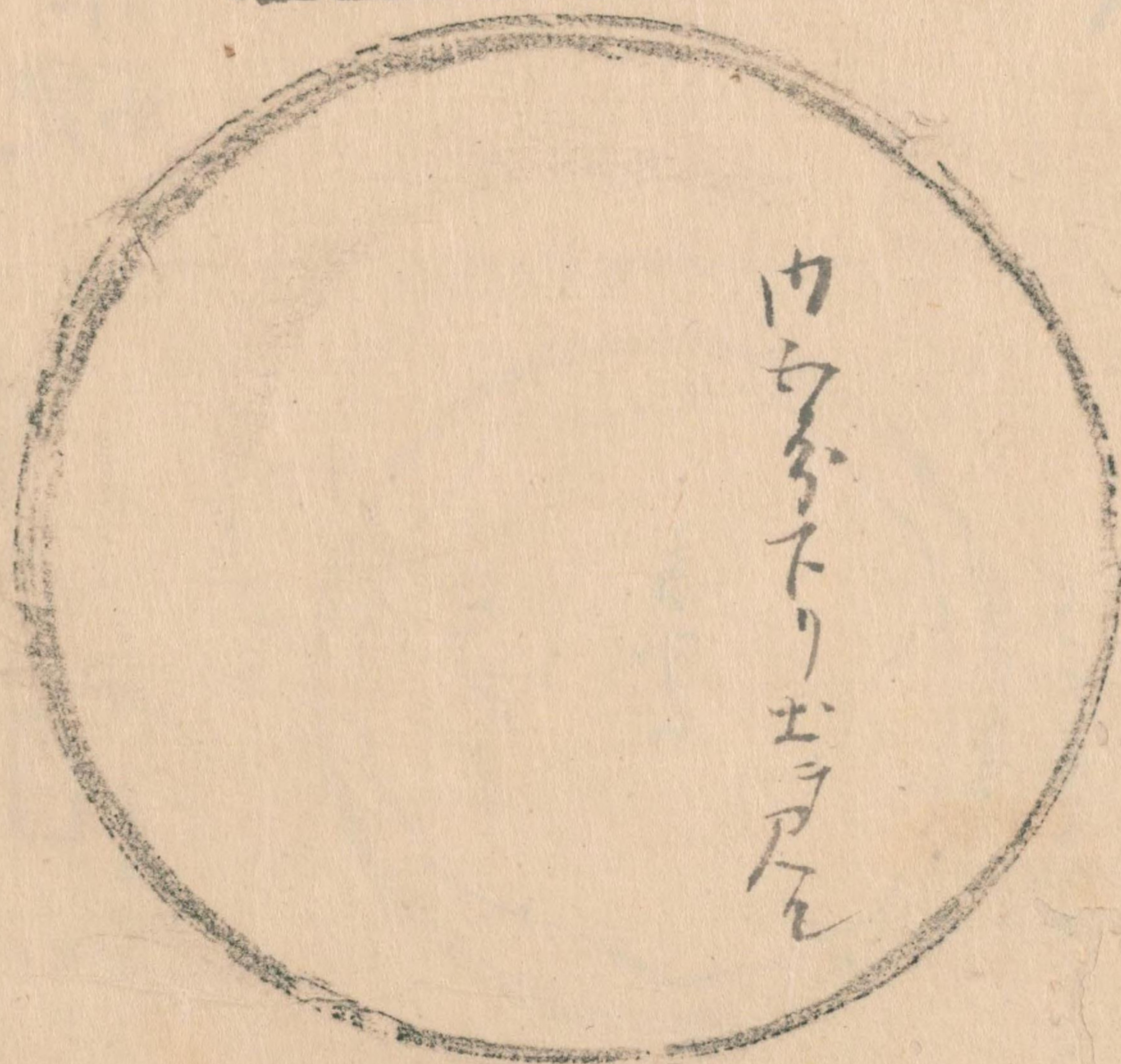


十五

代名  
子  
孫  
茶  
子  
合  
子



子  
孫  
茶  
子  
合  
子



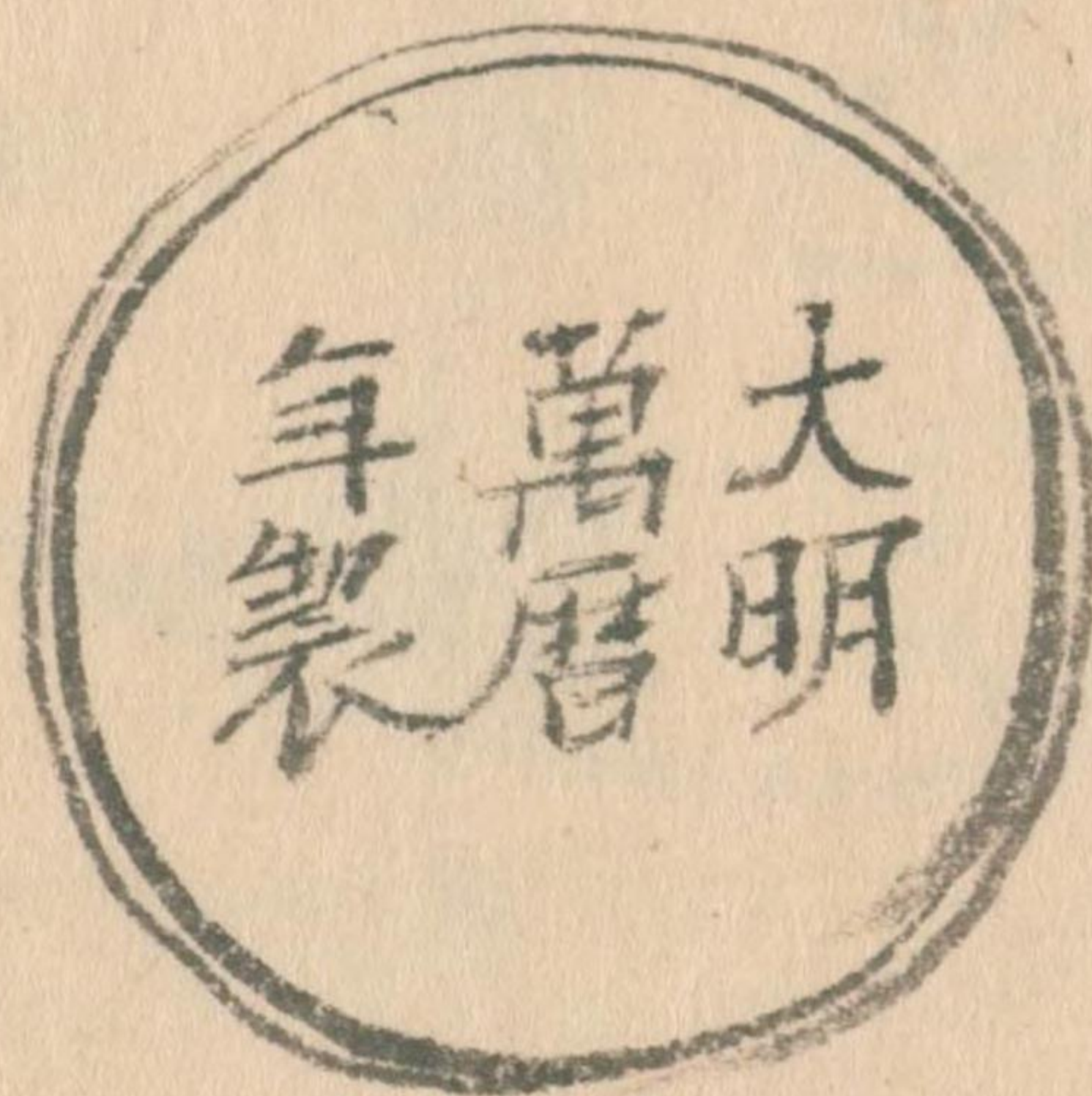
内  
子  
合  
子  
茶  
子  
孫  
子



白桐根木ニテ  
三三三  
三三三

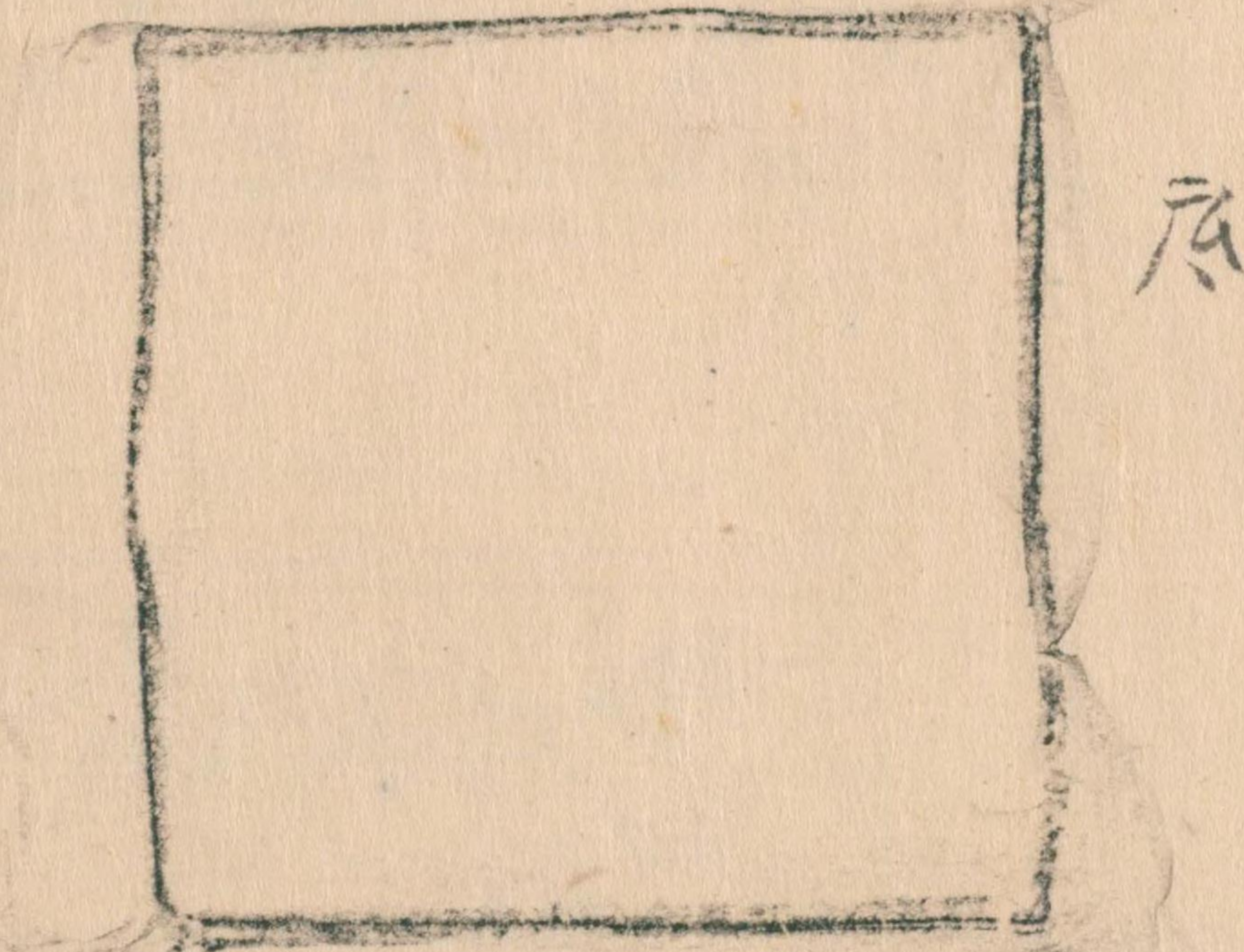
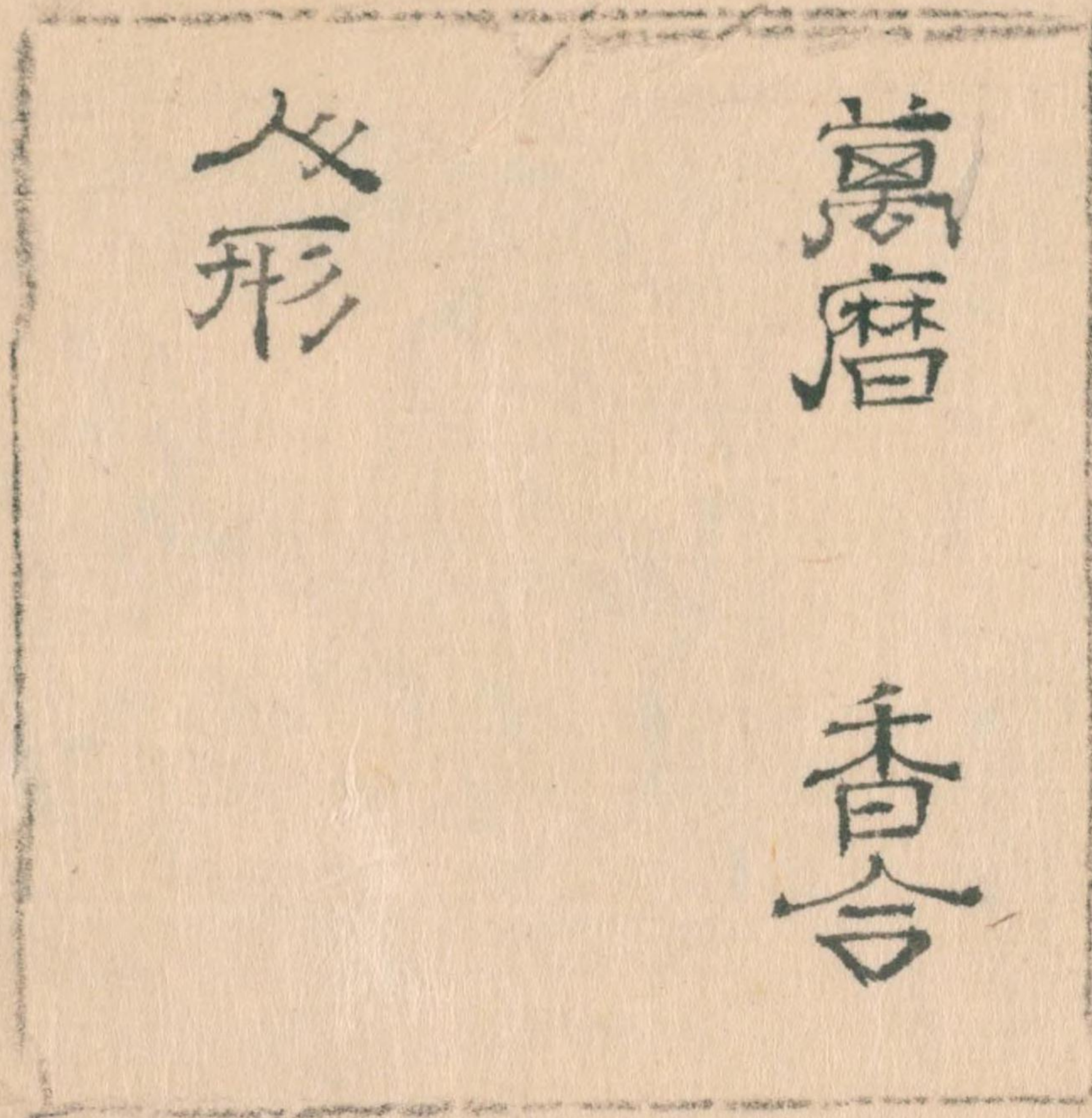
三三三

染付



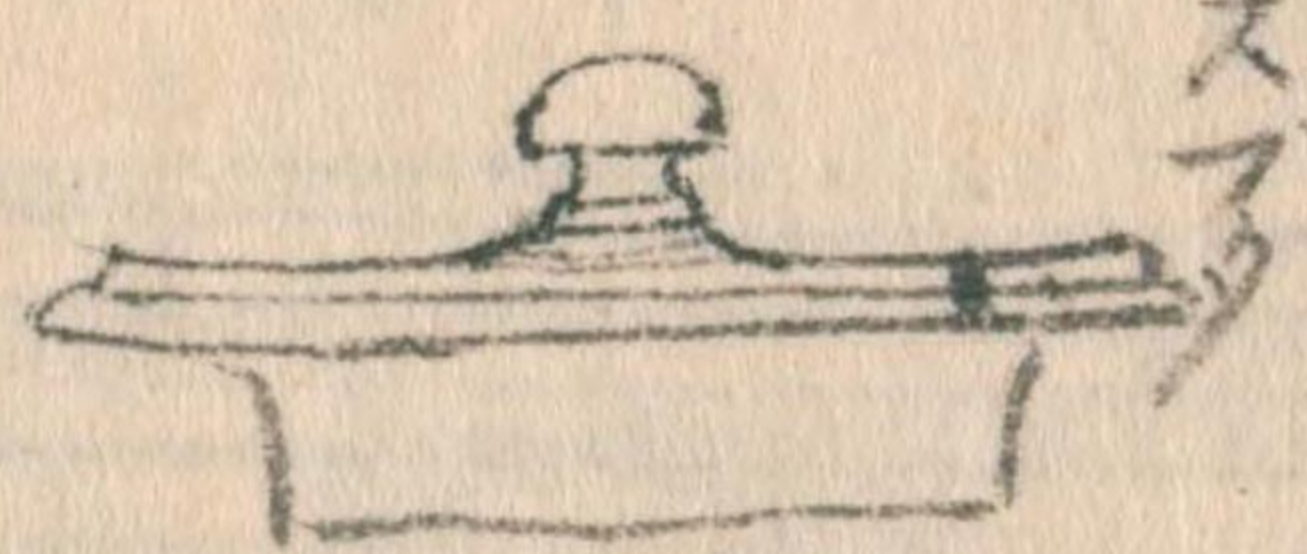
三三三

其

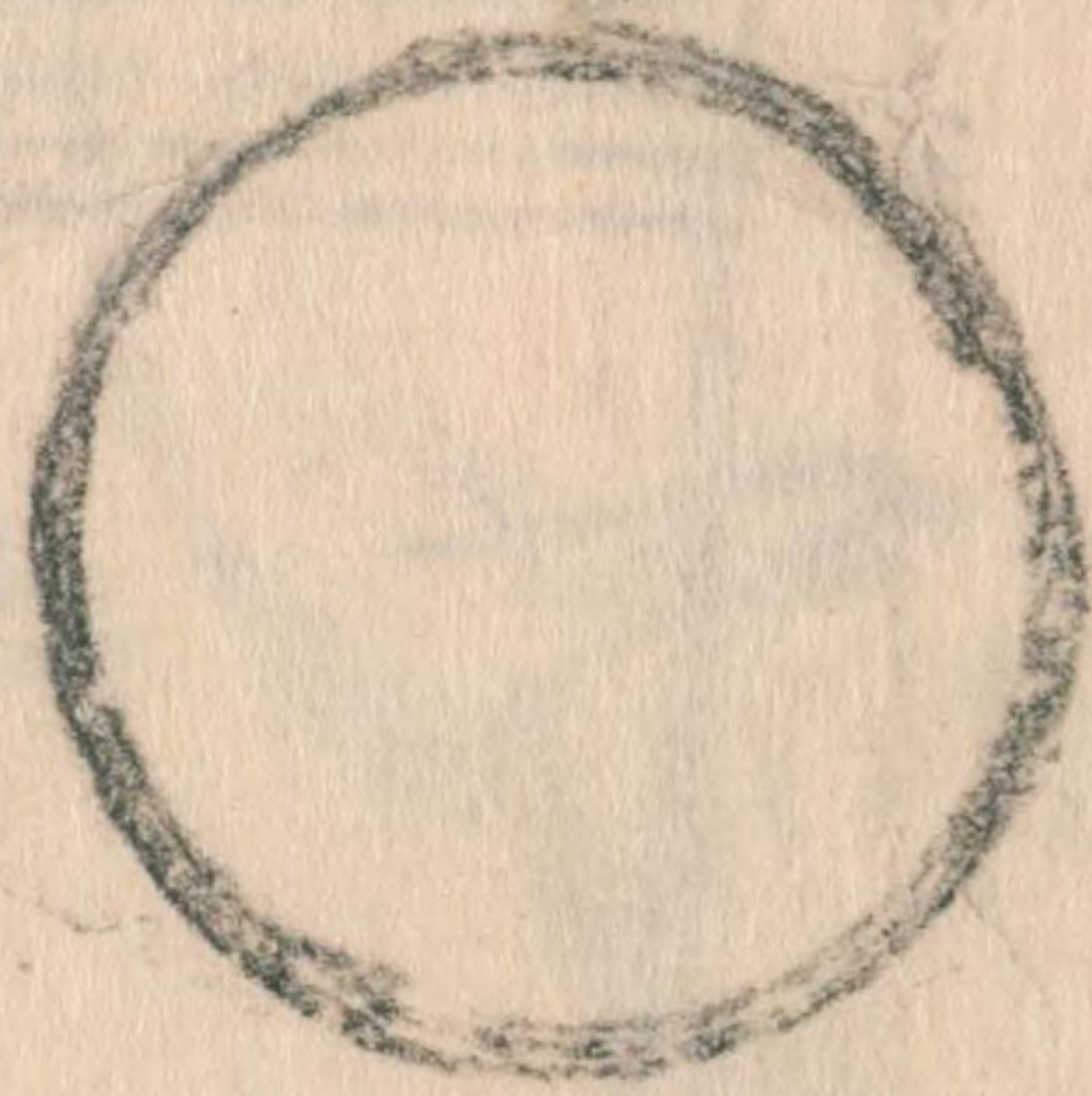




郭巨



白相子  
おろ



地掃上元ゴザラチ赤  
本印とらゴマカニセ  
三ノ手

三ノ手  
コシキ  
何カ  
何カ



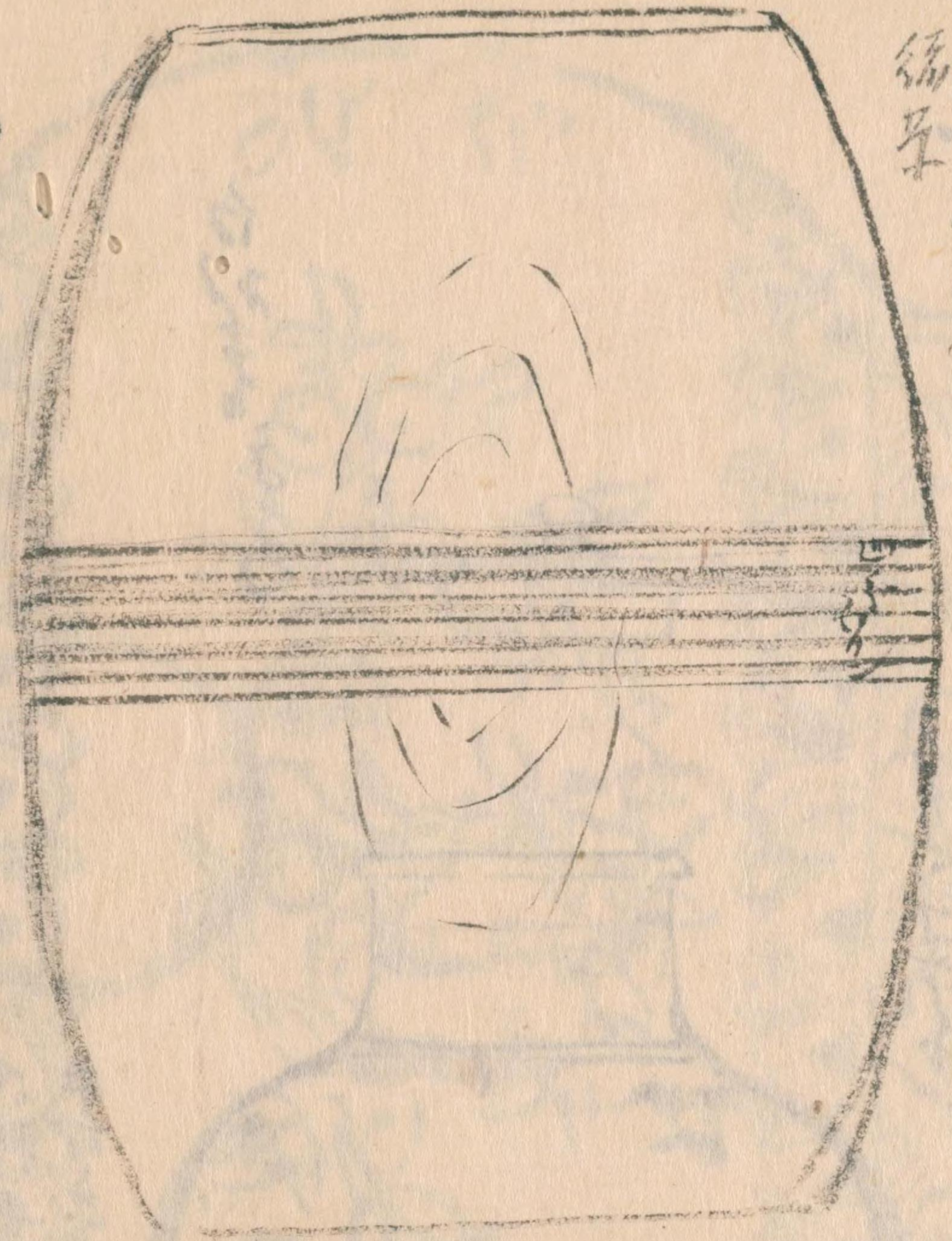
十七



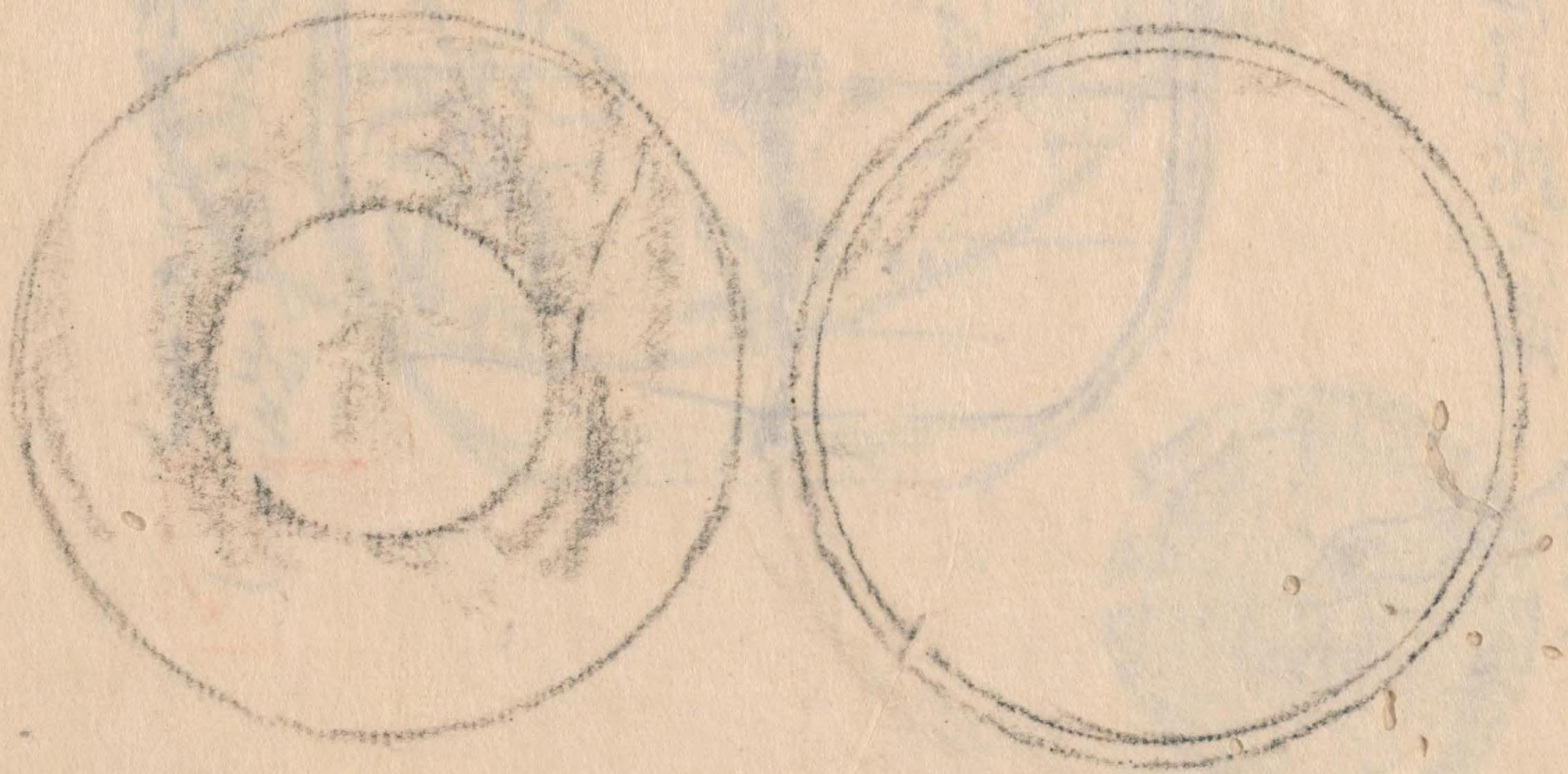


指春はむろの内わりの 唐瓦面を漆下キ

此の器は化(何) 漆の各段後子 命六下(下)漆



此の器可三寸(三寸)あり  
向内の字(字)は(何)一(一)行(行)キ  
本(本)字(字)下(下)キ(何)字(字)の(何)キ(何)キ(何)キ



結平 頭(頭)字(字) 後(後)字(字) 下(下)

六

二乃(二乃)度(度)ス(ス)ぬ(ぬ)キ(キ)モ  
取(取)あ(あ)り(り)手(手)向(向)山(山)  
紅(紅)母(母)の(の)に(に)キ(キ)お(お)の(の)  
ま(ま)の(の)く(く)





沼園寺 左手沼紋ニ小し金紋次ニ大紋ニ



白地和久田  
比石押共在流

十九

宗南時所の太刀  
宗南時所の太刀



宗南時所の太刀  
宗南時所の太刀  
宗南時所の太刀  
宗南時所の太刀





中野(15)

至中  
三河河内 後陳  
國後朝申 汝控心  
解

三河河内 後陳  
國後朝申 汝控心  
解

三河河内 後陳  
國後朝申 汝控心  
解

〇二

白相好者よそ

素具

蘇ウ地お母屋子行子 中 白比桐境者子  
瓦 墨乃石ある言をツル 年 花紋念入

拔他

官家仰筆

かろつて

宗甫寫之

白相好者よそ

三寫

水器



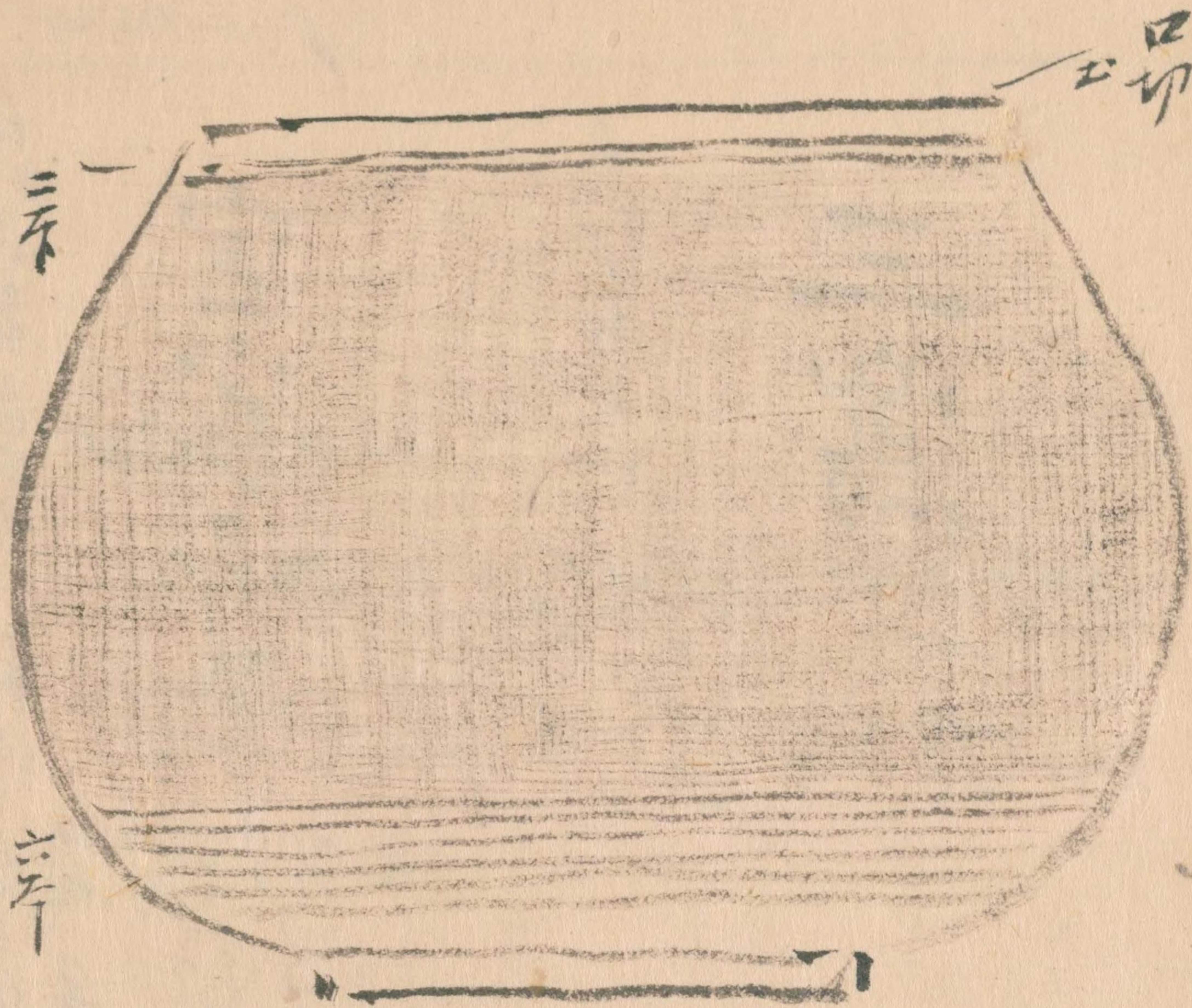


銀砂子

内底上毛馬  
 糸古竹製地酒地  
 紋金前法  
 口口箱



二十一



三

三

口切  
 糸古竹製地酒地





蓋香爐

高麗

牛

白柳書  
おとほの書  
元

白柳書

觀音像

贊寧丈山  
繪李龍珉

探幽筆

白柳書

昔也とて守りたるもの

白柳書







月前狀

しう雨のすゝをやらせきえよ  
月しおるよ花のよう境

月お持え

すみのほらつちのむきやかあん  
月しおるよ花のよう境

月お懐舊

まわねへ海に居ねようあふ  
じうかふるあけの夢の月

中々生流

二十四

己亥菊月無憶者入陣紹英馬祝

九詞菊壽

存稿

存稿

白

書さく水七稿

白柳名老花は美をる何れも構存出換を差伝中認方

觀音像 贊 寧太山 探幽筆  
繪 李龍珉













むら雲

市所丸

茶碗

白切草  
子久

二十七



雲

白切草  
子久  
市所丸  
茶碗





天

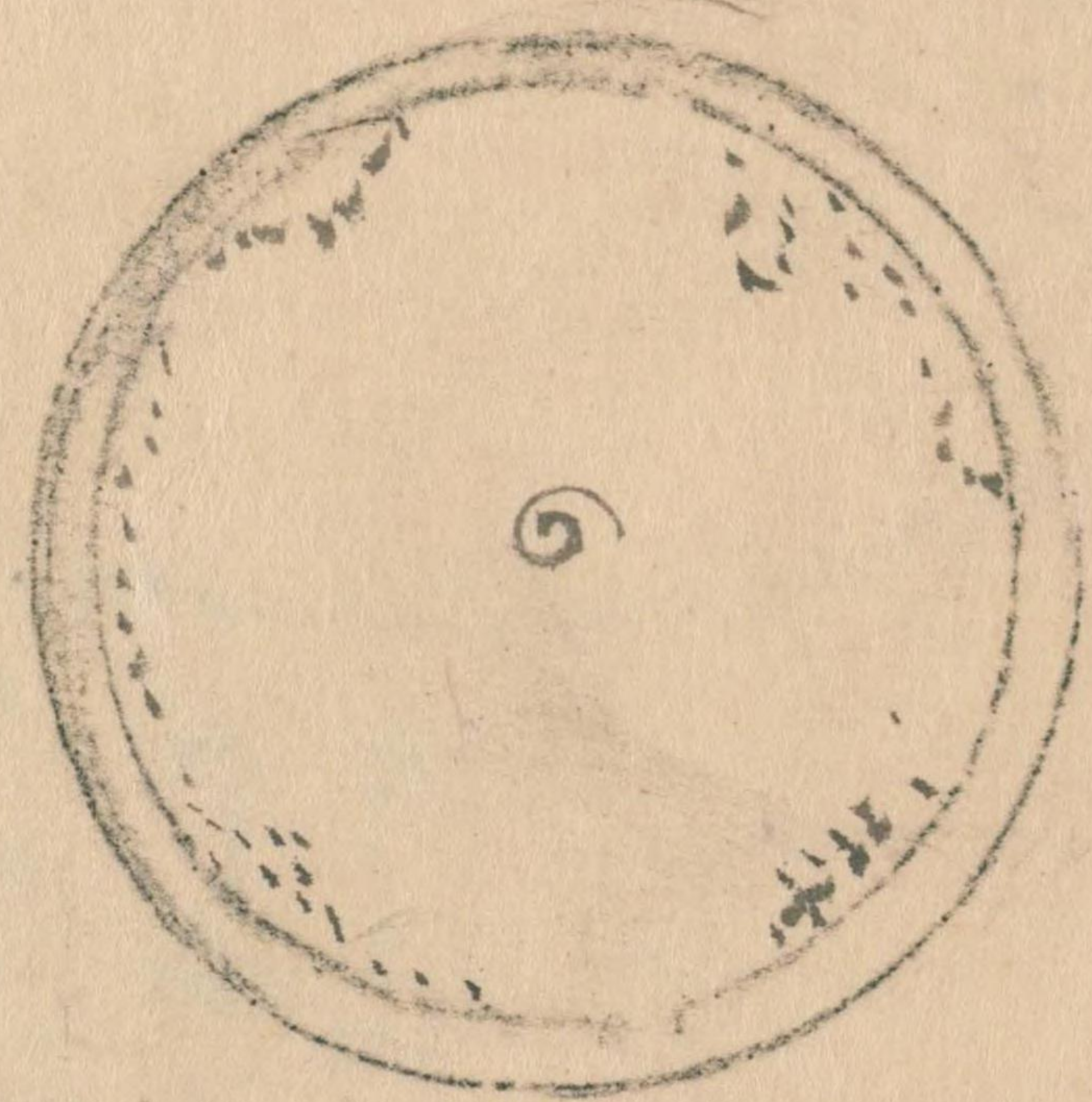
むら雲乃志乃  
てさ原指ふや

嵐あらしふり  
山やまれみ月

天



物ものなりなり八はち分ぶん儀ぎをを書かすす具ぐは  
いんいんていていていていていてい

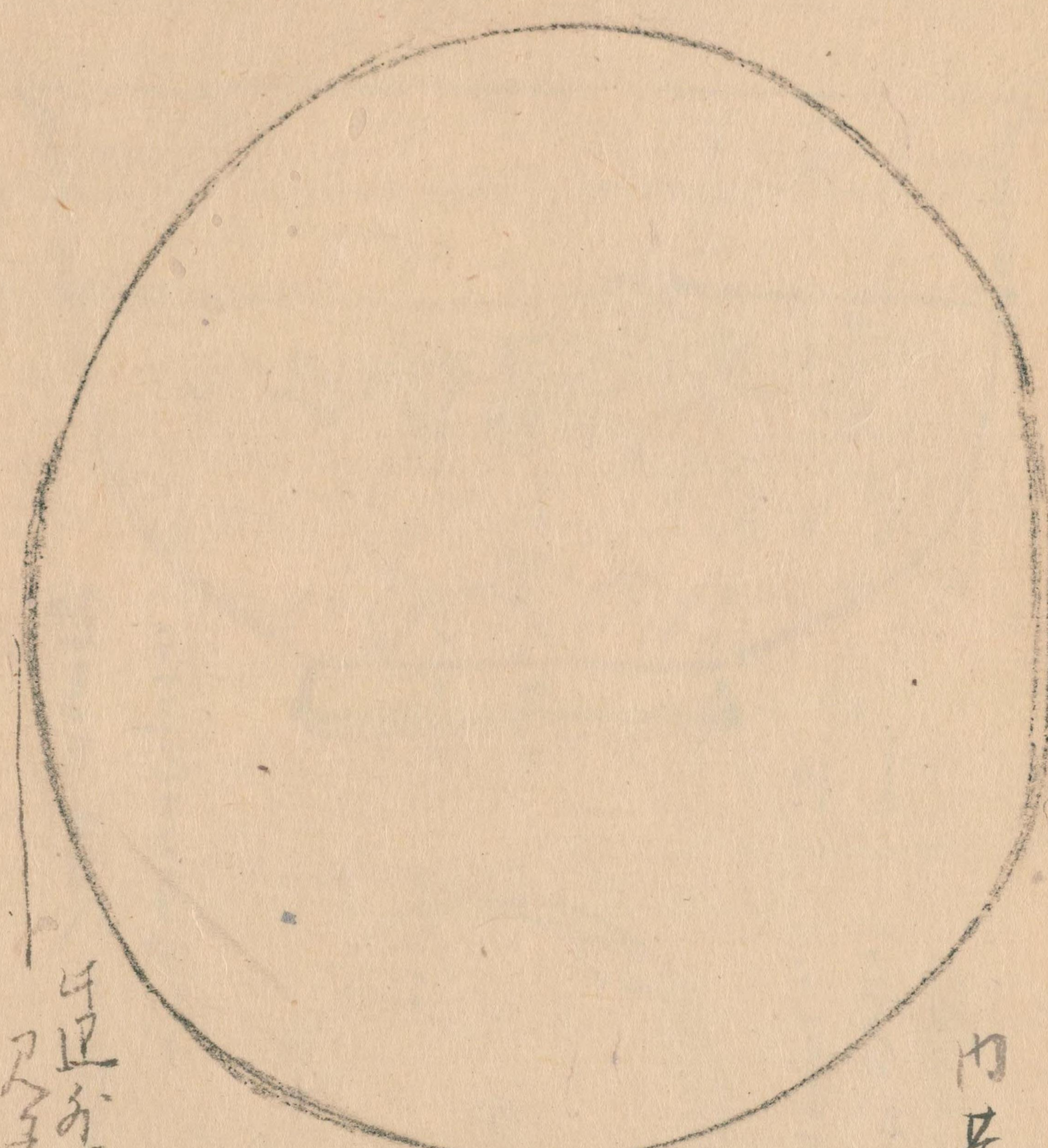


いんいんていていていていていてい  
ていていていていていていていてい  
ていていていていていていていてい  
ていていていていていていていてい



白菊

茶坑



白菊  
茶坑  
...

...

...

...



白茶  
茶花

白菊の

ふ、あまの誰の  
いふとすゝまはす  
行ふれち乃

新刊花抄  
言ひ多現入語  
いふとすゝまはす  
名代しを記す  
と

佳切

茶花  
白菊の  
いふとすゝまはす  
行ふれち乃  
ふ、あまの誰の  
新刊花抄  
言ひ多現入語  
いふとすゝまはす  
名代しを記す  
と



白濁を治す

# 宗祇文

中 宗 祇 文  
中 宗 祇 文  
中 宗 祇 文

宗 祇 文  
宗 祇 文

宗 祇 文  
宗 祇 文

宗 祇

宗 祇 文

中 宗 祇 文

宗 祇 文

宗 祇 文

宗 祇 文



白紙神元之知

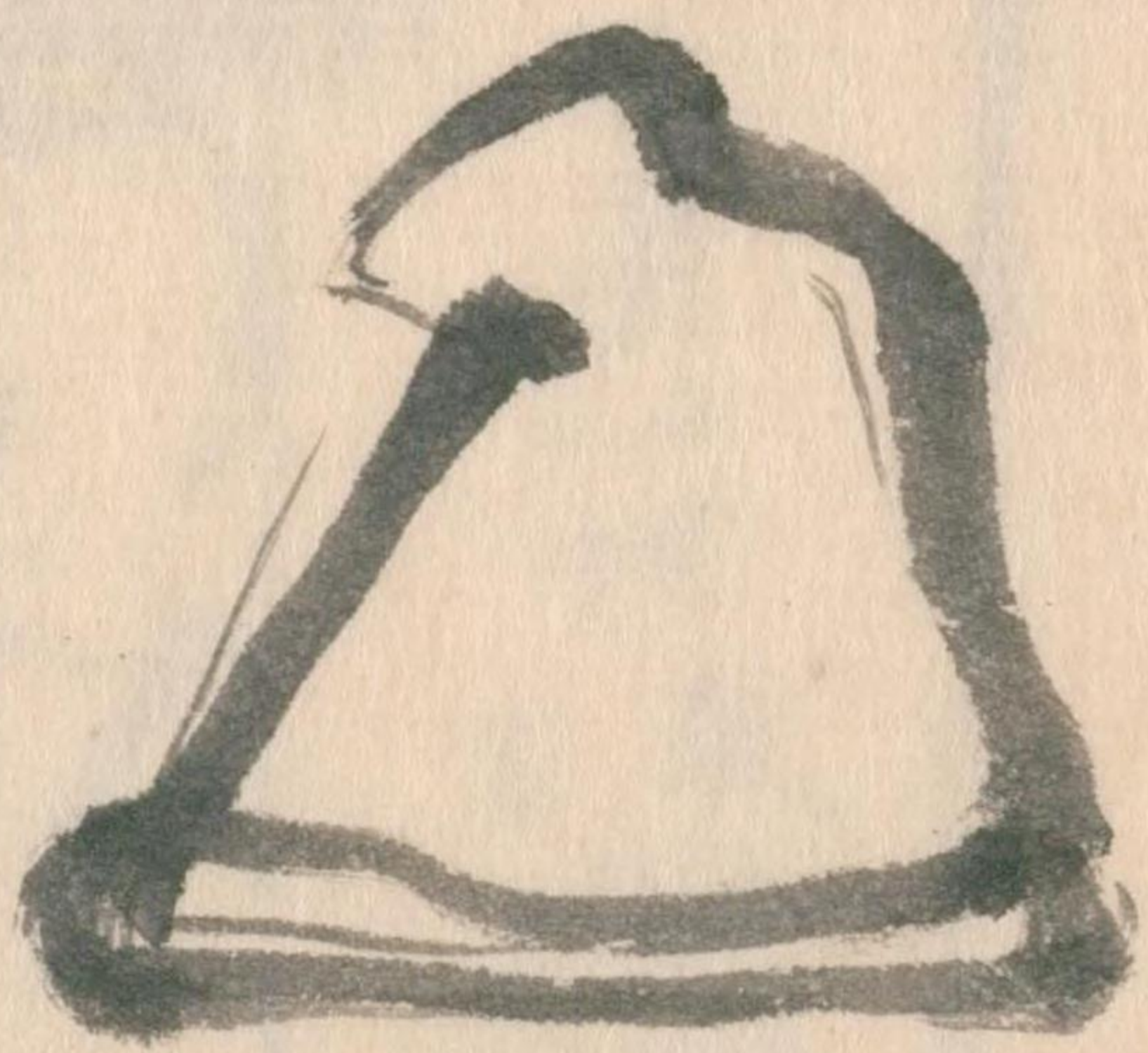
達摩

寸法齋

宗旦筆  
繪  
賛

三十二

寸法齋



之印  
七十歳

寸法齋

中世より三つに  
瑞彦君自傳の  
寸法齋

甲子年九月





三十三

糸平 英一蝶 敬書  
之三十八

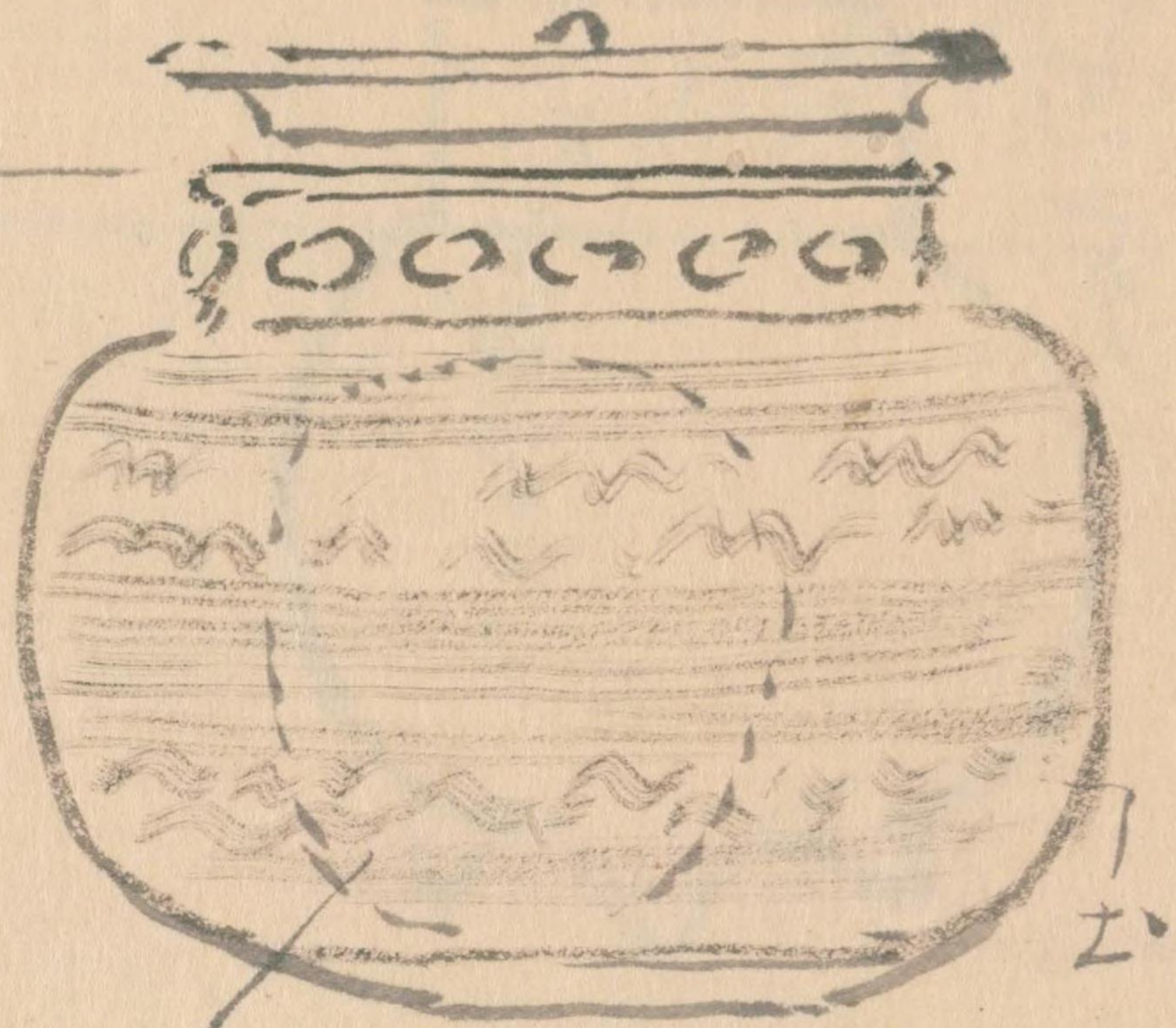




三十九

果五内任子  
赤名有西元  
大端あり

まぶら内  
のし田戸果  
かし

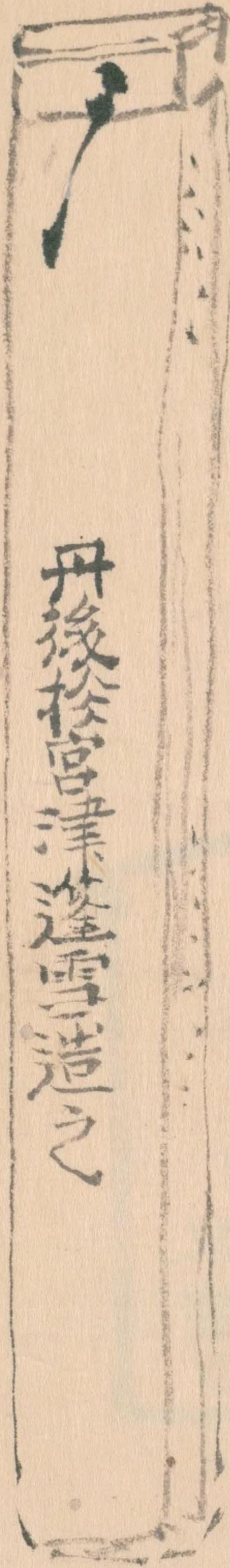


赤三



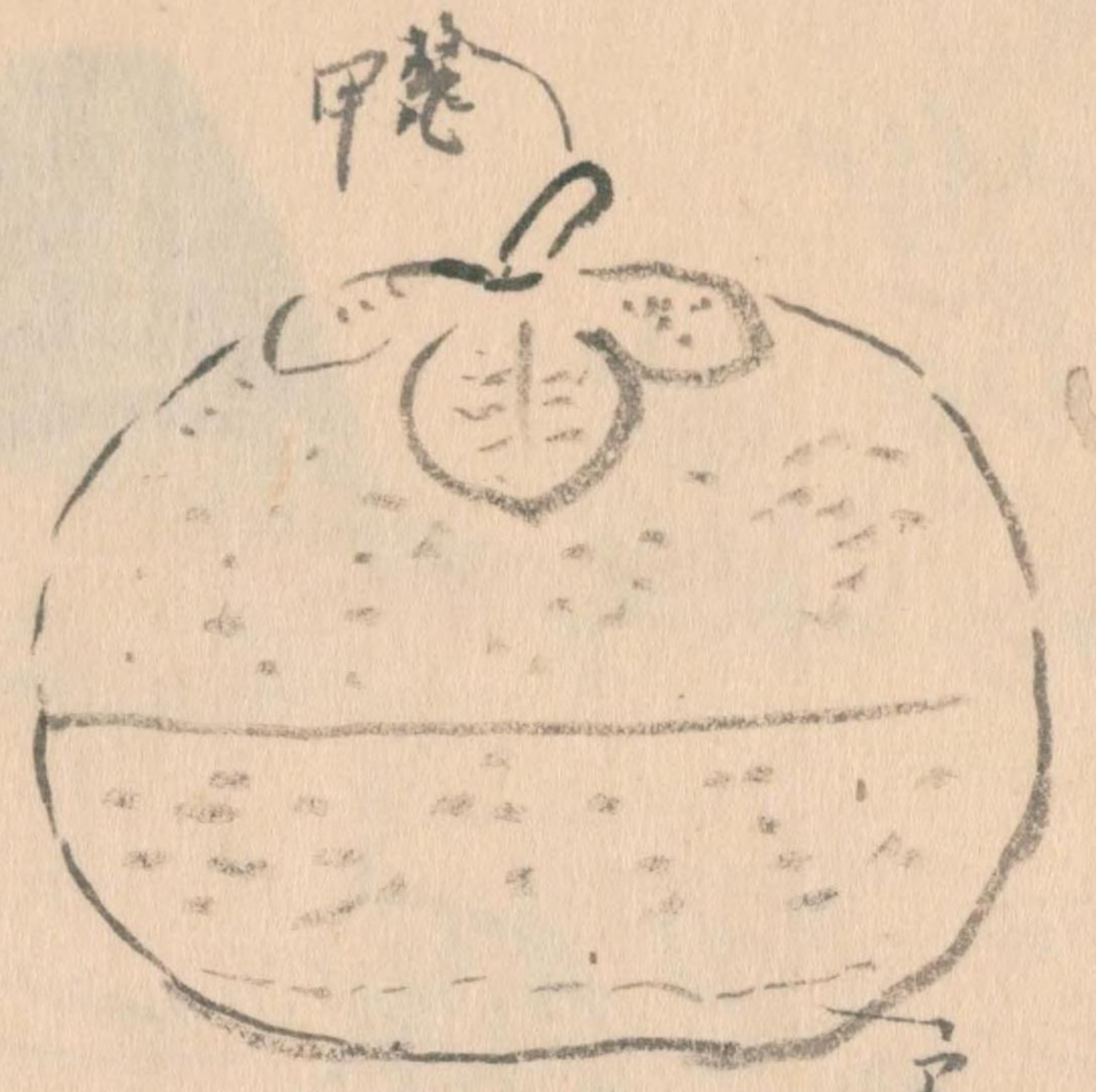
白梨石  
赤名あり

天合菴



丹後松宮津  
蓬雪造之

果  
紅花  
赤  
名あり  
大端あり



キ  
シ  
ハ  
朱  
木  
地

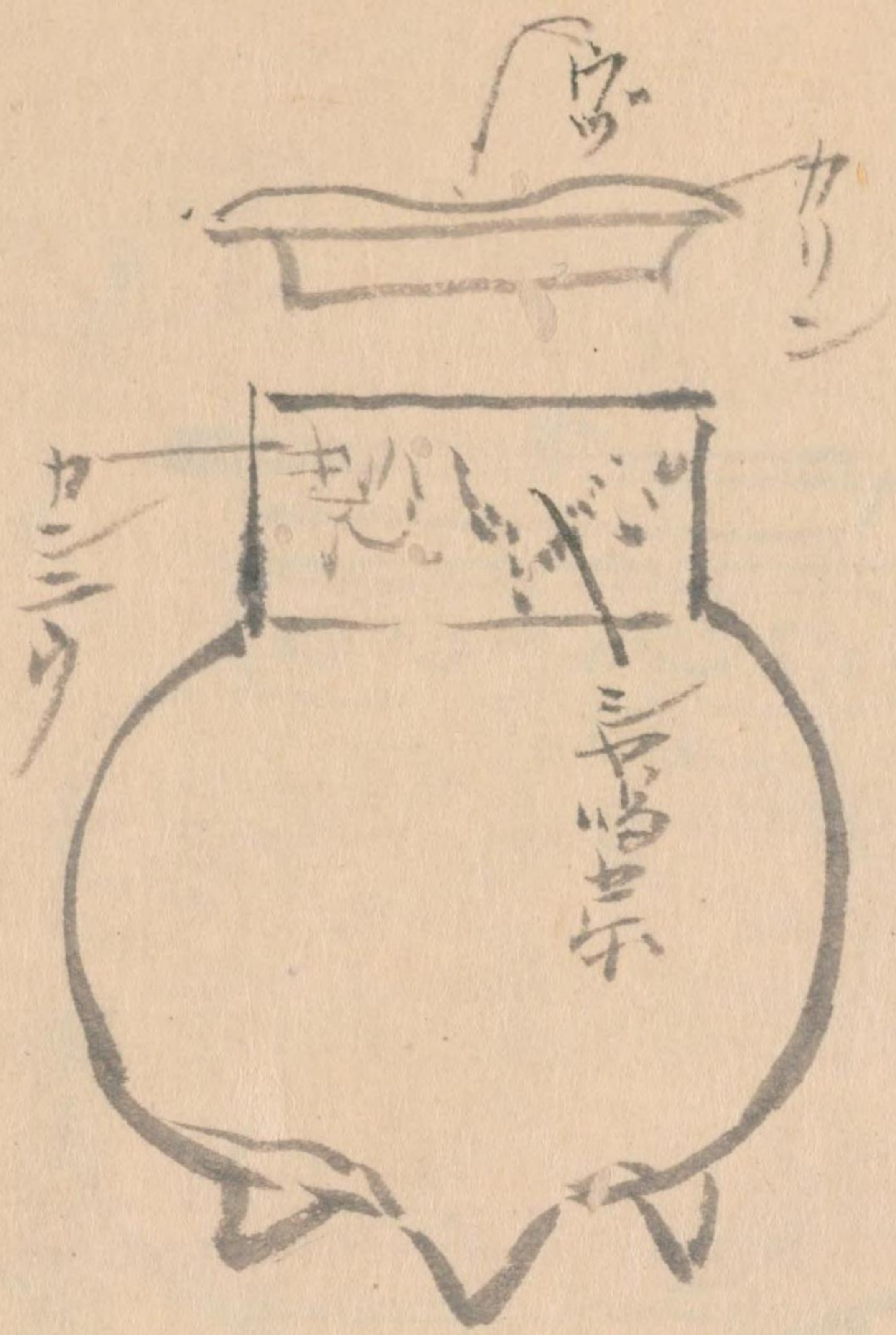
柿

白梨石  
赤名あり



三十五

お下  
のう名  
之のう  
後守下



お下  
のう名  
之のう  
後守下  
お下  
のう名  
之のう  
後守下  
お下  
のう名  
之のう  
後守下

瀬戸

香炉

白  
初  
香  
炉



布衣



糸櫻

きりぎりす櫻は花はあまらして  
さつめ限ハ糸柳りか

白折洋巾一尋一布

糸着扇装紋丸子色  
信はトクホウヲハセ

世伝

杉女

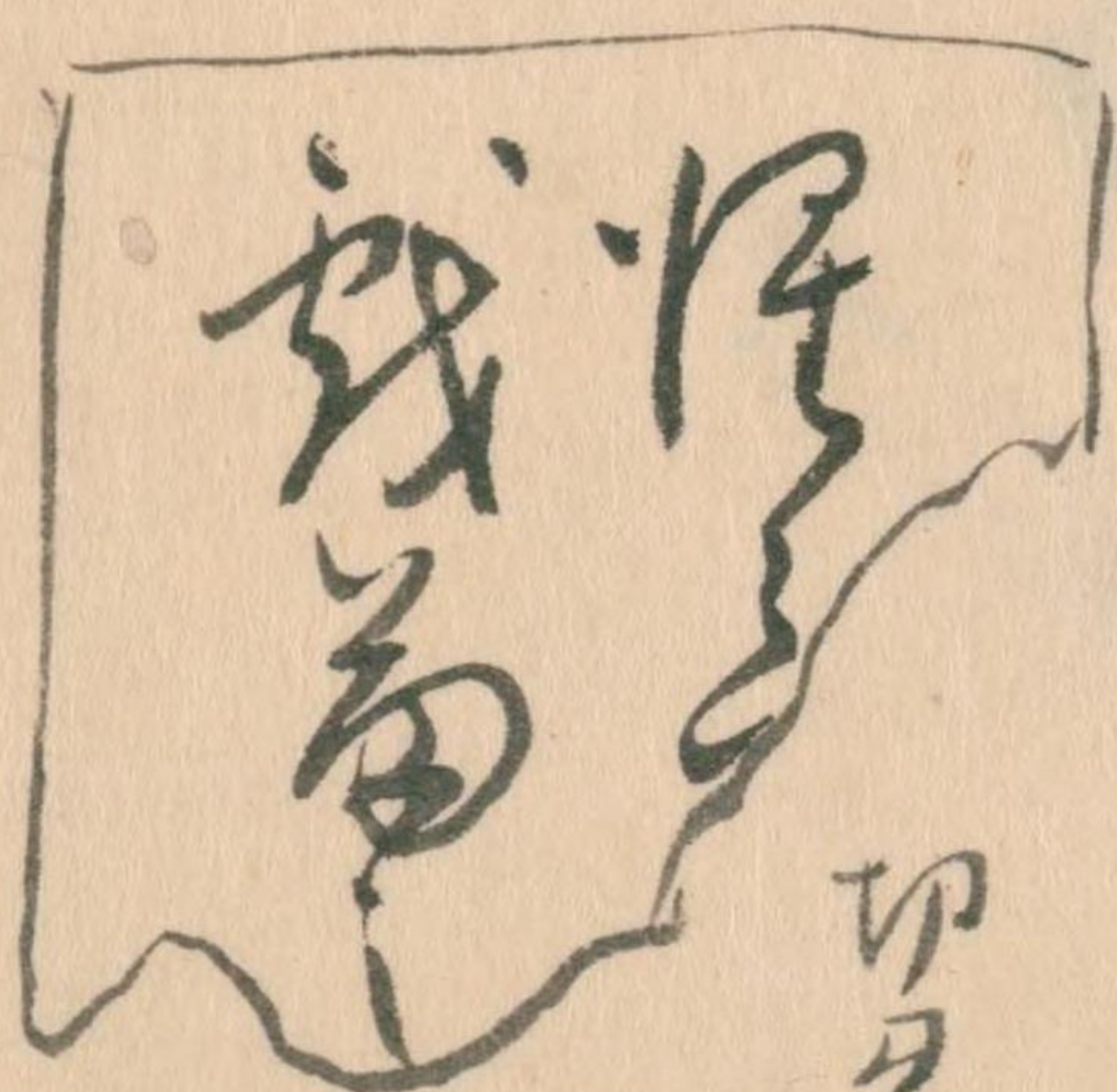
夕陽

卯辰

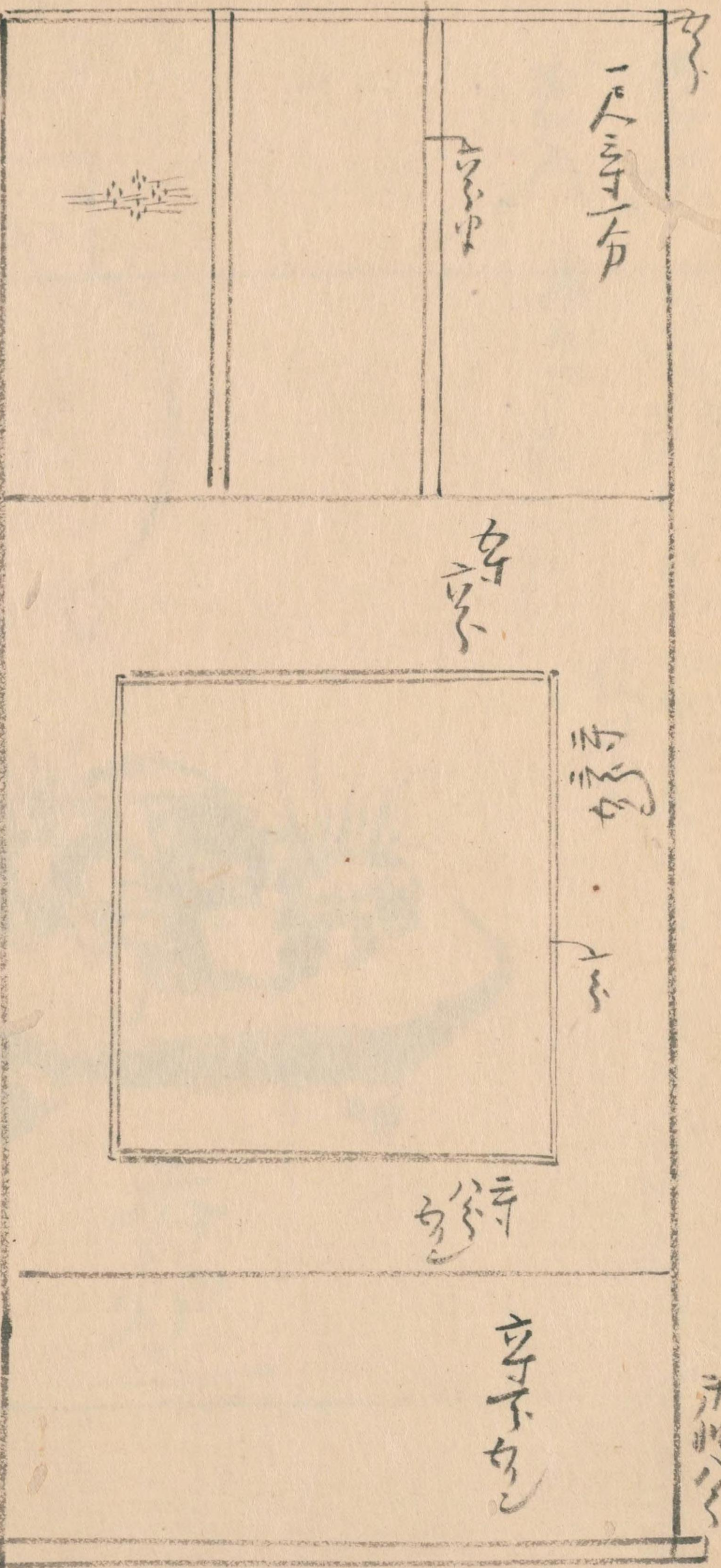
岩后草

杏林堂

上下花色千言六山夜風所茶記念帳  
中柳をきりぎりす



卯辰



一人

中柳

夕陽

卯辰

卯辰

卯辰

卯辰







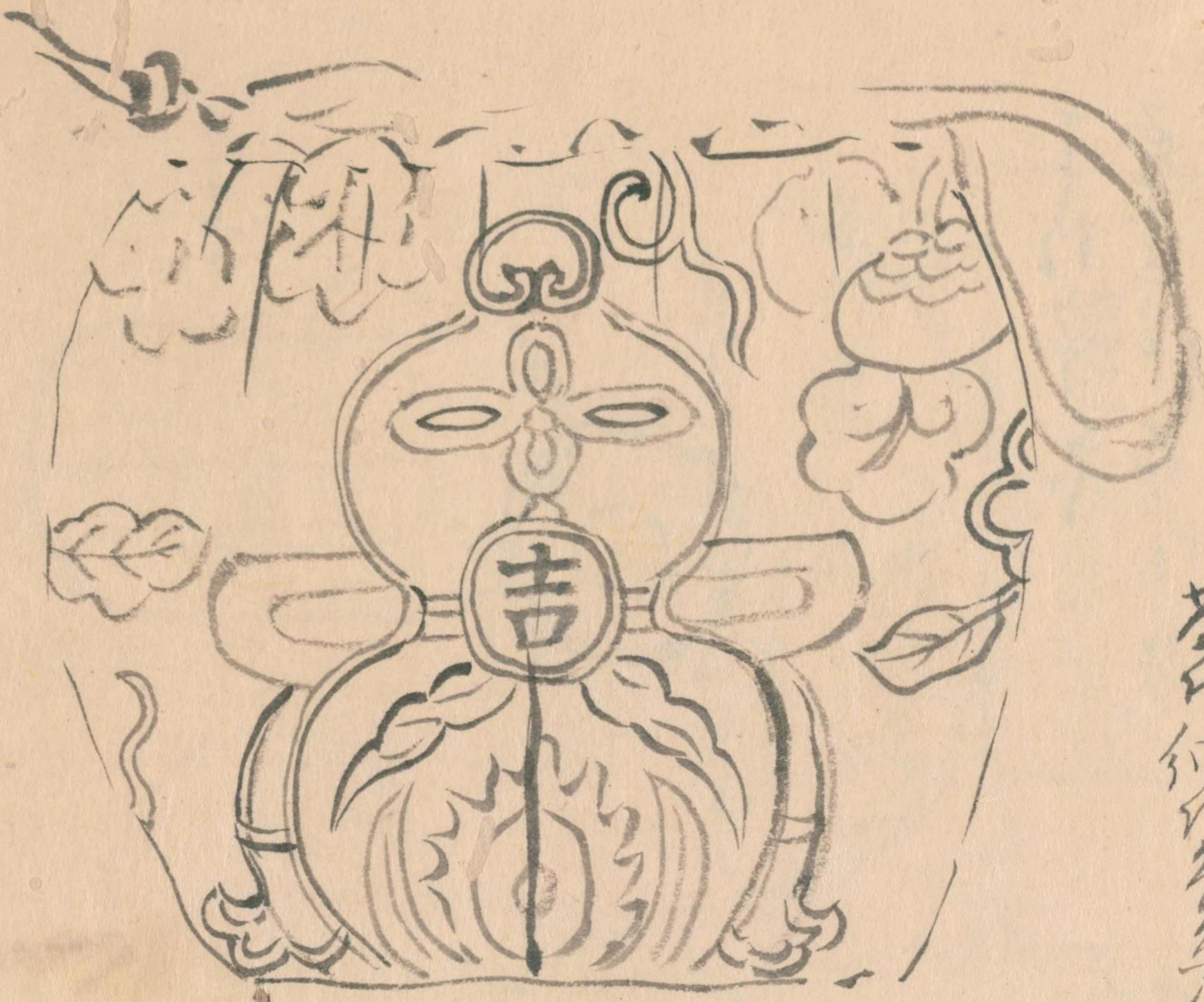
三十八

白切着、本之

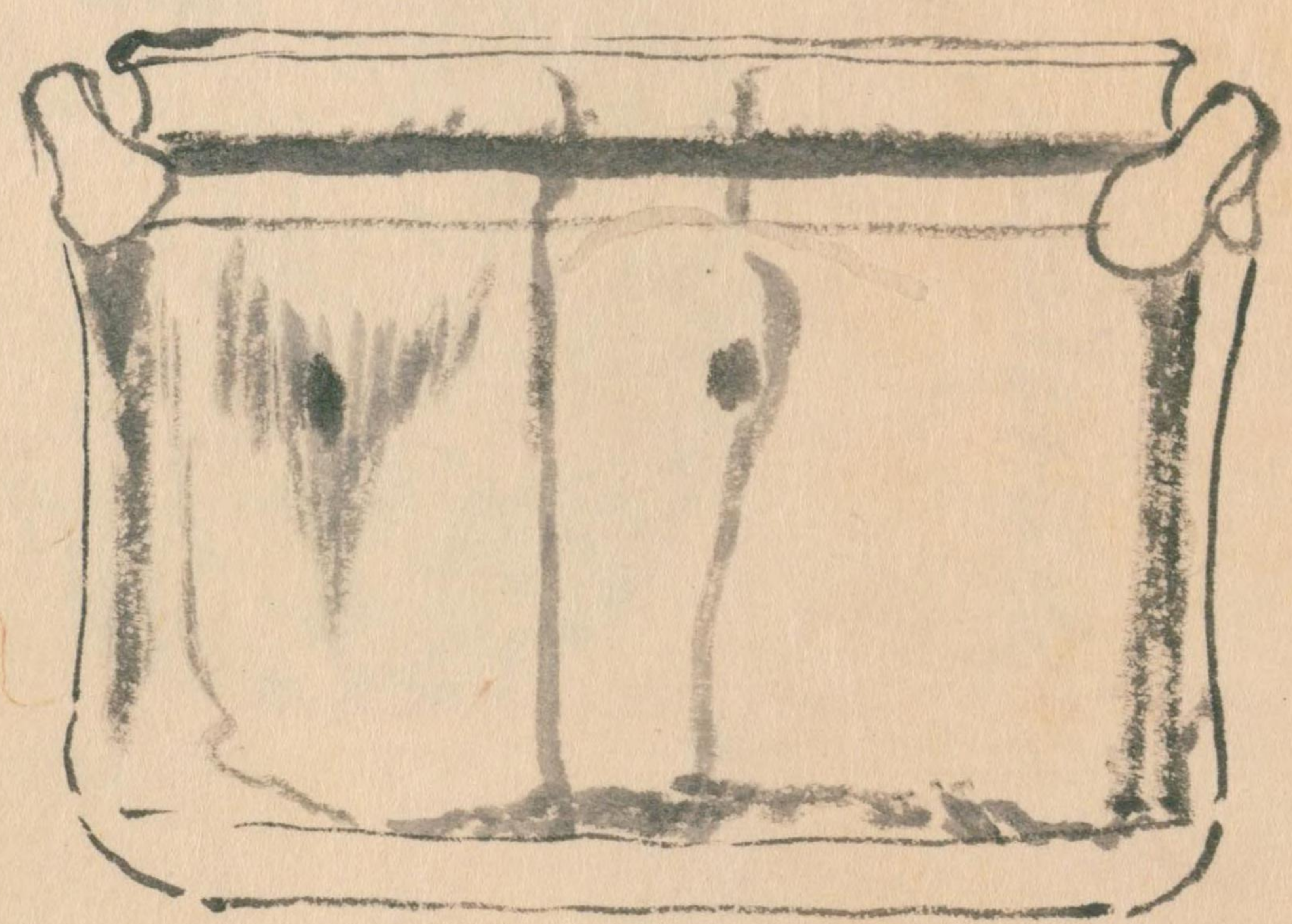
瀬戸目付

本居宗子、底三寸半  
トナリ、九寸

器、高、本居、二寸

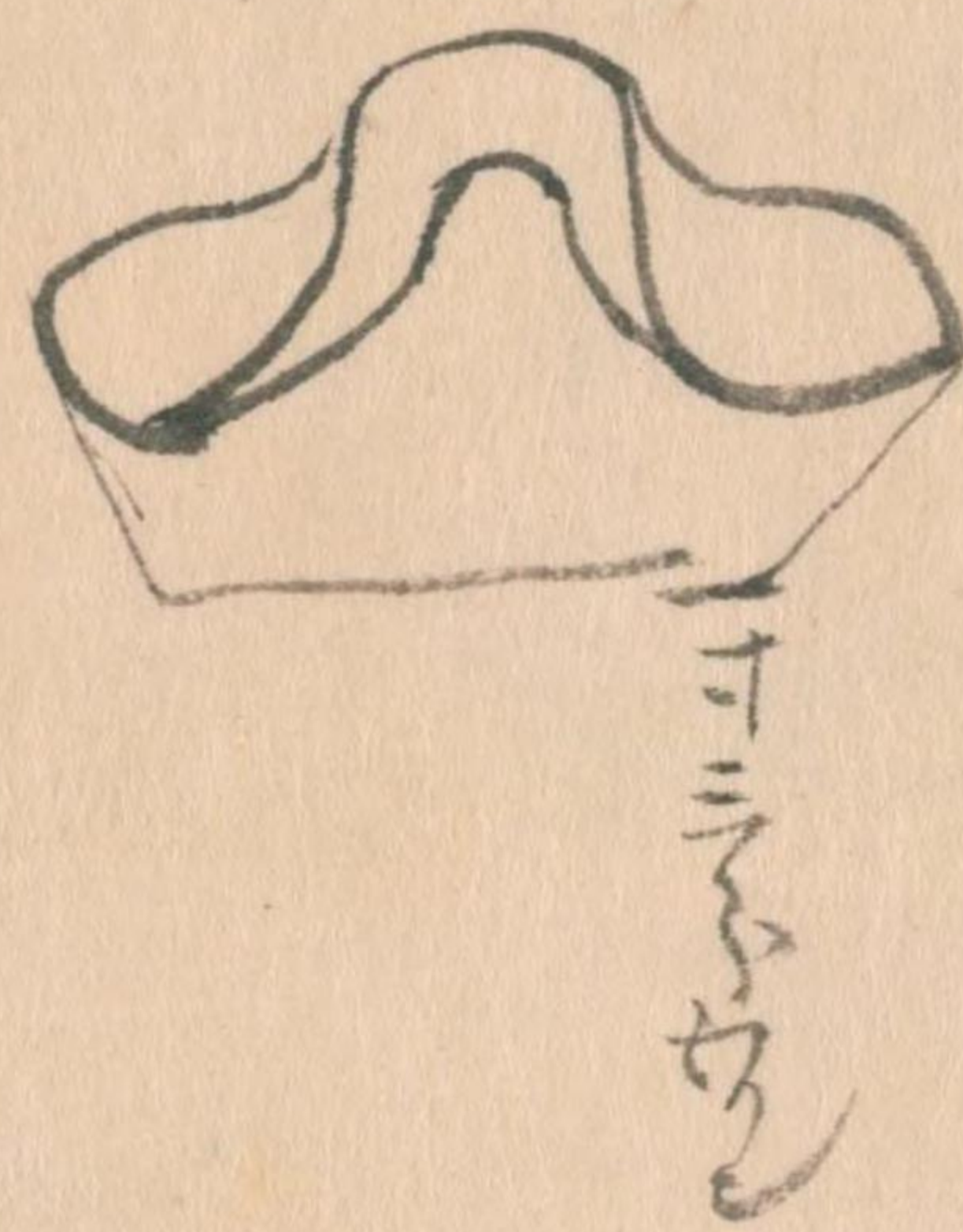
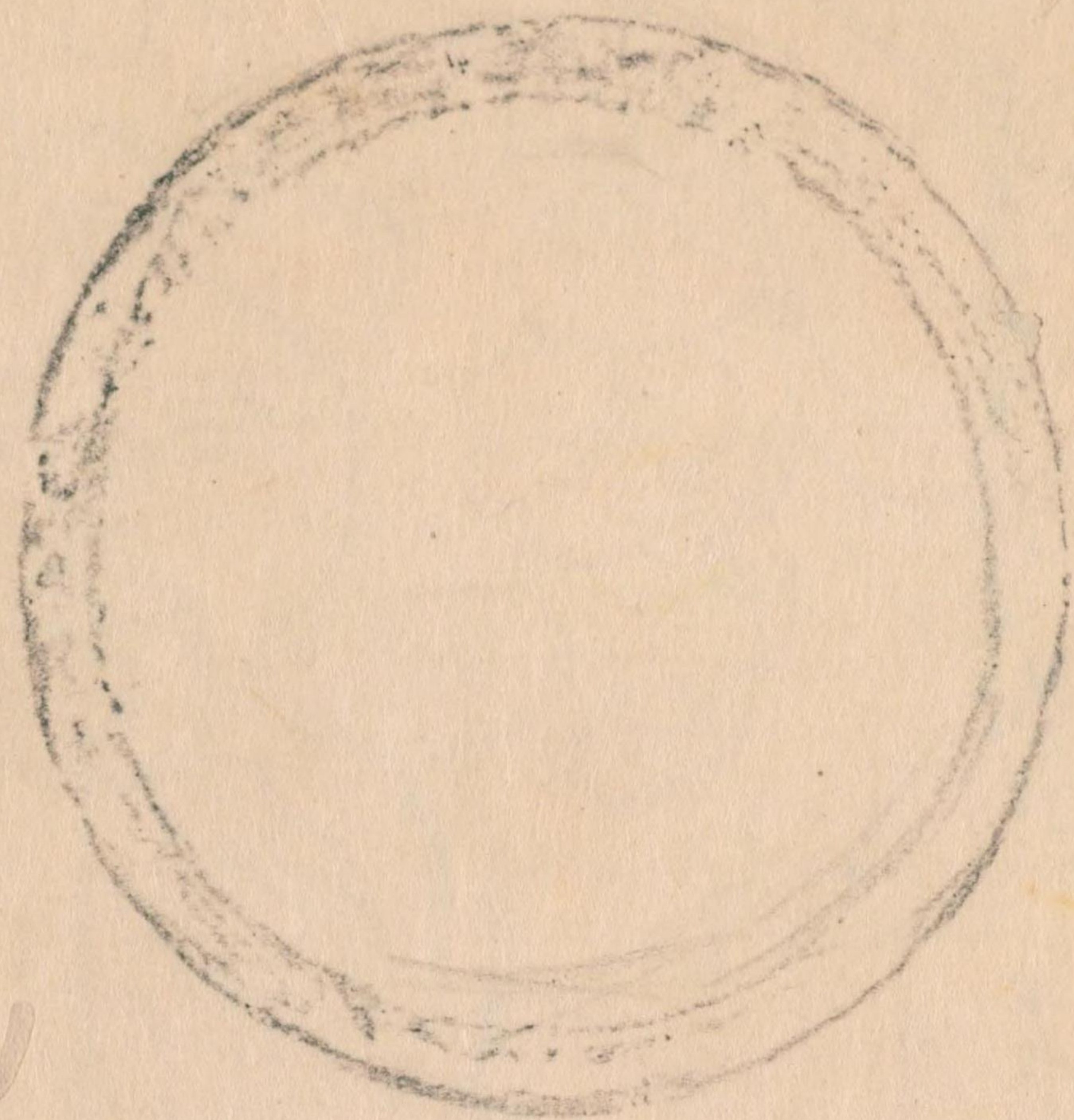


此は細地を平紋、重なる作  
係、ワリ、口、下

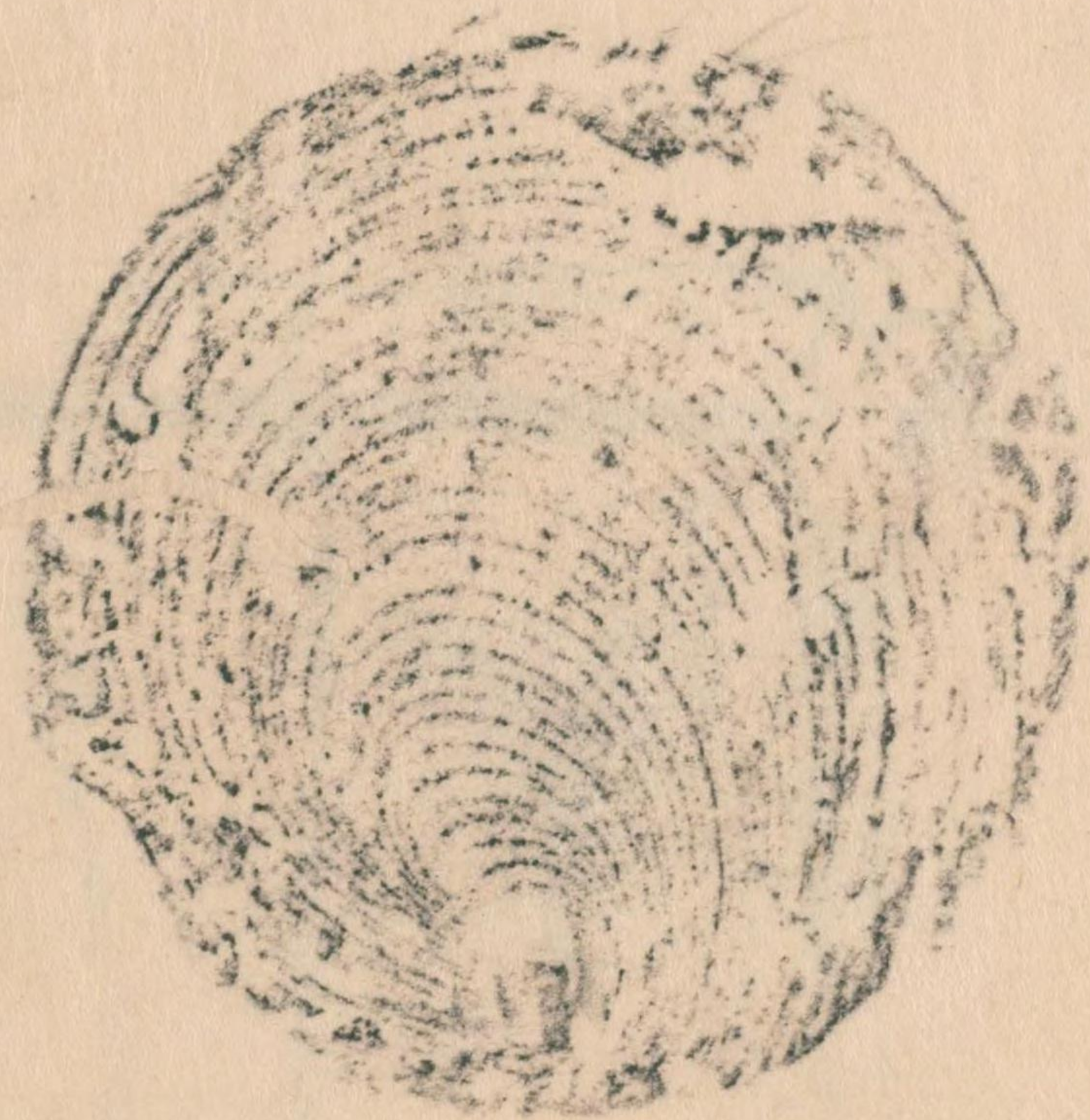




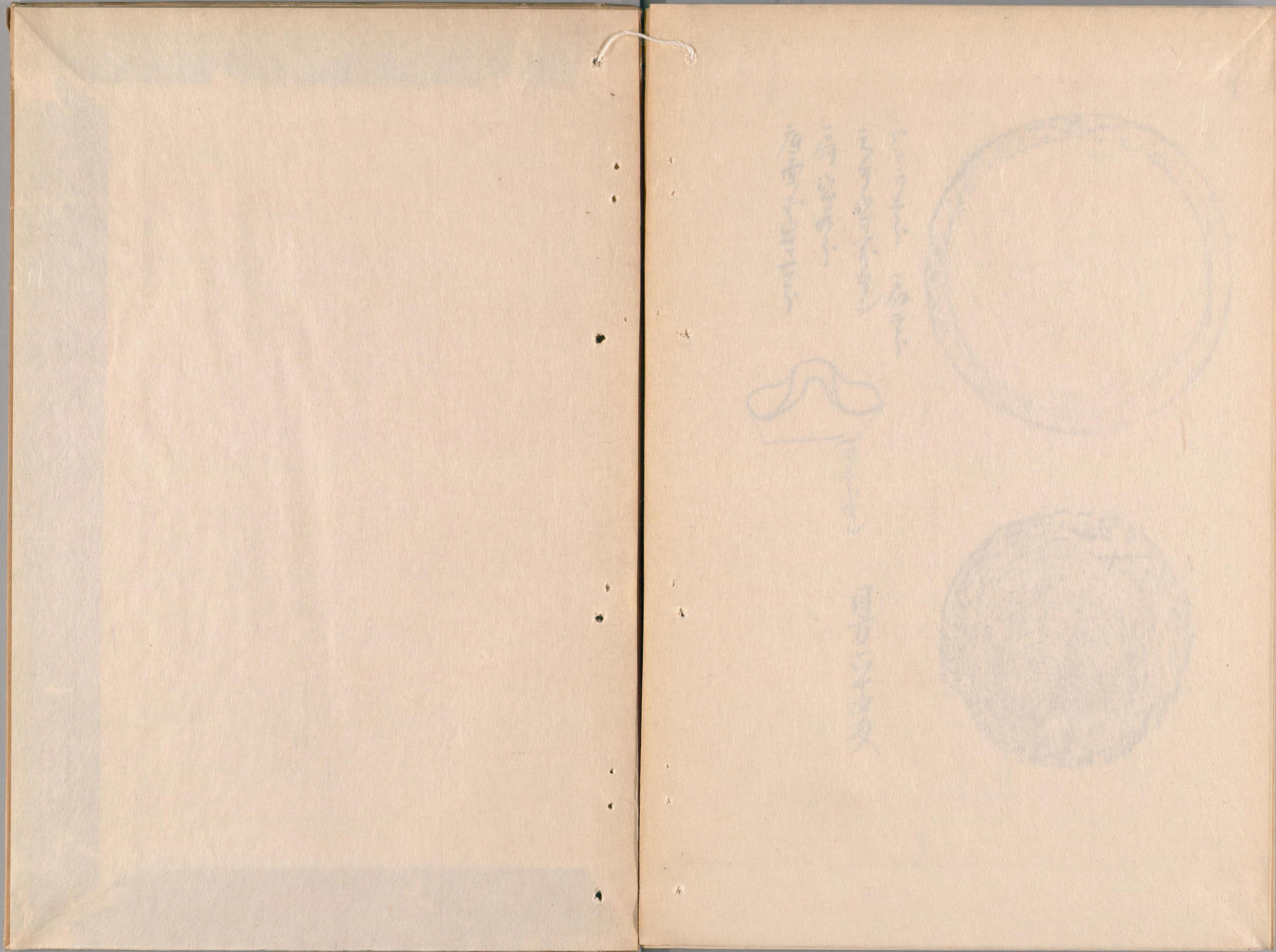
口よりさへ 二層を  
よりさへさへ  
肩よりさへ  
底面よりさへ



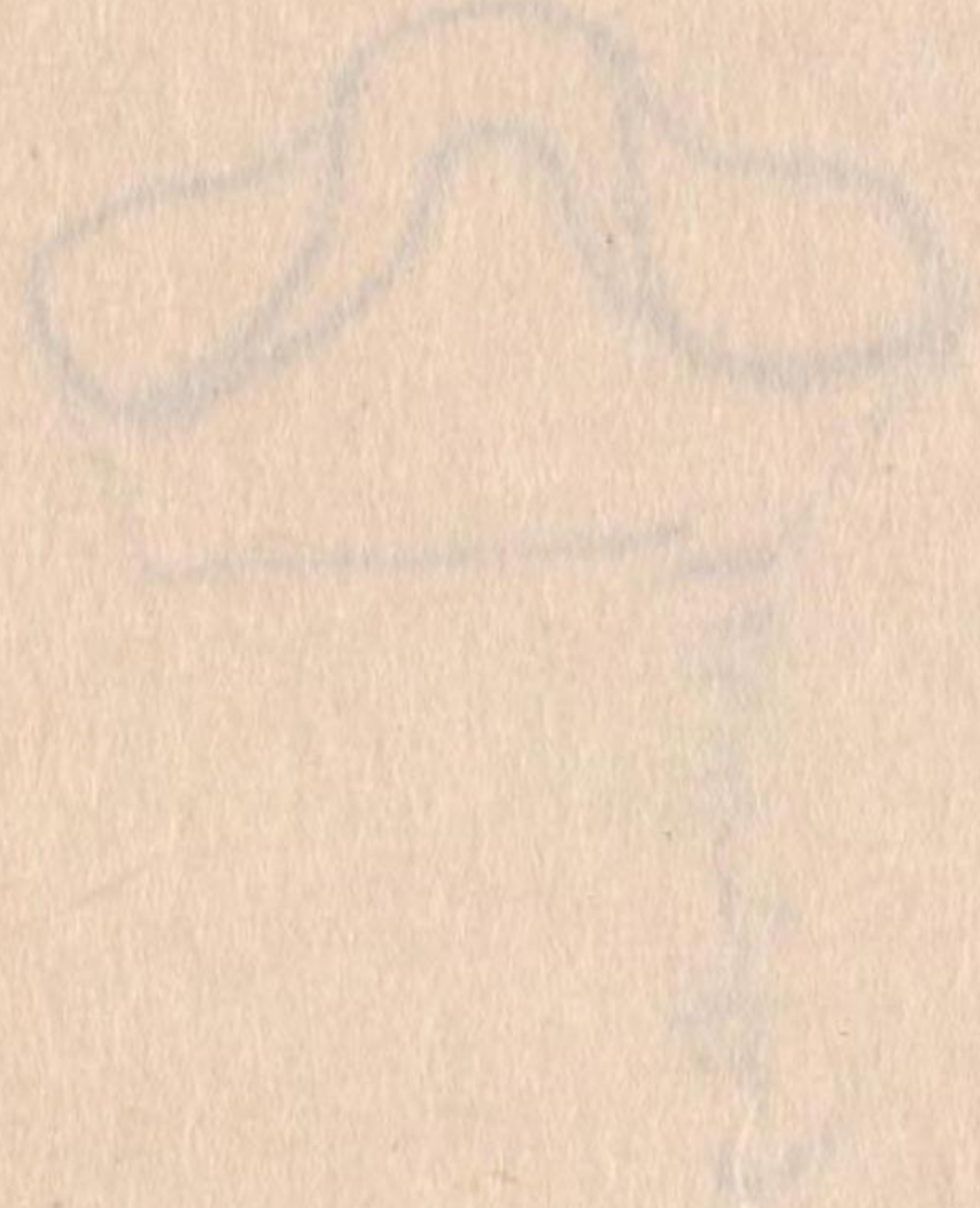
目方若干古々



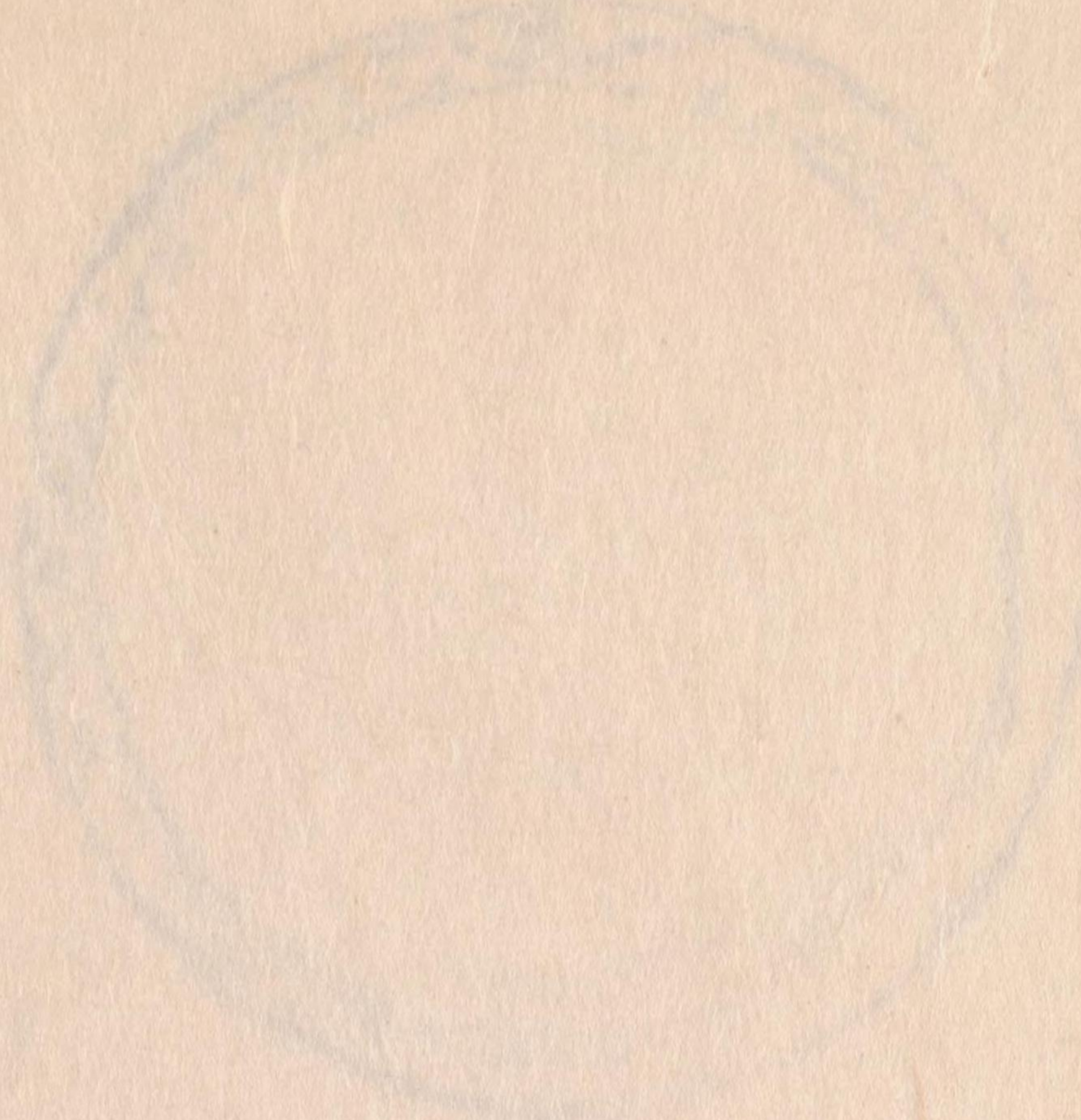




唐草文  
花文  
鳥文  
魚文



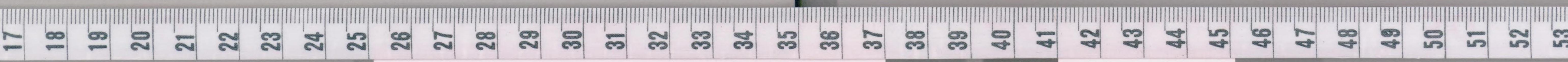
目方  
目方





831  
77  
95

三十三



国立国会図書館 タイトル『過眼録』 請求記号 831-95

ガラス使用





国立国会図書館 タイトル『過眼録』 請求記号 831-95

ガラス使用